

**開発パートナー事業
ラオス読書推進運動支援プロジェクト
終了時評価調査報告書**

平成 17 年 7 月
(2005 年)

独立行政法人 国際協力機構
人間開発部

序 文

ラオス人民民主共和国では、特に子ども向けの図書が不足し、学校図書室の整備も遅れており、子どもたちの識字能力向上や基礎教育の普及を妨げていることが大きな問題となっている。

このため同国政府は、1990年より読書推進運動を展開しており、1992年には、ラオス国立図書館が、本プロジェクトの実施団体である特定非営利活動法人「ラオスのこども」に対し、同運動の支援を要請した。本実施団体は、それ以来、ラオスの読書推進運動を支援しており、その実績と経験をより拡大することを目指し、平成13年度に独立行政法人国際協力機構、開発パートナー事業に応募、選考の結果、採択された。

2002年12月より、読書推進運動支援プロジェクトを実施してきたが、同プロジェクトは、両国関係者の協力により、概ね順調に進捗してきたと言える。

今般、同プロジェクトの終了時評価を行うことを目的として、平成17年5月に調査団を派遣し、ラオス国政府および関係機関、本件実施団体との間で、プロジェクトの進捗の確認と今後の方向性に係る協議を行った。本報告書は、同調査結果を取りまとめたものであり、今後のプロジェクトの展開に、更には類似のプロジェクトに活用されることを願うものである。

ここに、本調査にご協力をいただいた特定非営利活動法人「ラオスのこども」など内外関係者の方々に深い謝意を表するとともに、引き続き一層のご支援をお願いする次第である。

平成17年7月

独立行政法人 国際協力機構
人間開発部
部長 末森 満

地圖



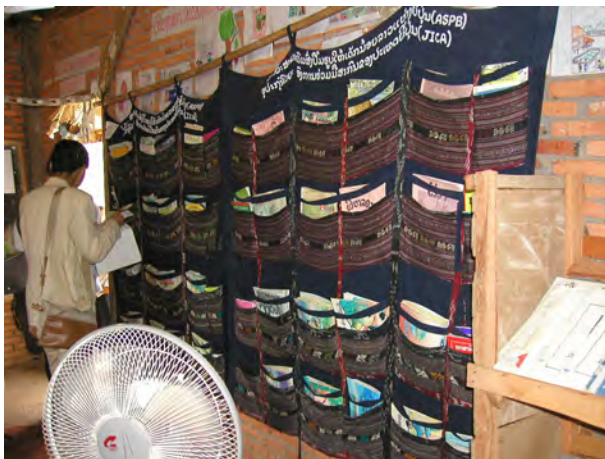
写真



小学校視察



配布した図書箱



配布した図書袋



調査結果報告会

略 語 表

ALC	Action with Lao Children	特定非営利団体 ラオスのこども
ASPB	Association of Sending Picture Books	ラオスの子どもに絵本を送る会 *2003年5月8日に特定非営利活動法人格を取得し、 団体名を「特定非営利活動法人 ラオスのこども（英 名：Action with Lao Children）」に変更。
BHN	Basic Human Needs	人間としての基本的ニーズ
C/P	Counterpart	カウンターパート機関 （相手国受入機関）
NGO	Non Government Organization	非政府組織
PCM	Project Cycle Management	プロジェクト・サイクル・マネージメント
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
SVA	Shanti Volunteer Association	社団法人シャンティ国際ボランティア会
UNICEF	United Nations International Children's Emergency Fund	国連児童基金

評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：ラオス人民民主共和国	案件名：読書推進運動支援プロジェクト
分野：教育（その他教育）	援助形態：草の根技術協力事業（草の根パートナー型）
所轄部署：人間開発部第一グループ基礎教育第一チーム	協力金額（契約時点）：15,926,400 円
協力期間	2002.12～2005.12
	先方関係機関：国立図書館、教育省 機関協力日本側：NPO 法人ラオスのこども
<p>1 1 協力の背景と概要</p> <p>ラオス人民民主共和国（以下、「ラオス」と記す）では、植民地時代の教育政策、ベトナム戦争による混乱、アジア経済危機などの影響により、学校教育に関して様々な問題を抱えている。子どもの読書活動は、ラオス語を学び、想像力を豊かにするために重要であるが、ラオスでは、特に子ども向けの図書が不足し、学校図書室の整備も遅れており、子どもたちの識字能力向上や基礎教育の普及を妨げる結果となっている。</p> <p>このような状況を改善するために、ラオスでは、国立図書館が全国の学校教育に図書の導入を目指し、1990 年以來、「読書推進運動」を展開してきた。本プロジェクトの実施団体である NPO 法人ラオスのこども（ALC）は、国立図書館からの支援要請を受けて、1992 年から、図書の出版、図書袋・図書箱の配布、読書推進セミナーの実施等を通じて同運動を支援しており、読書推進活動に関する様々なノウハウを蓄積してきた。それらの知見を生かし、ラオスでの読書推進活動をさらに拡充し、子どもたちが自ら読書に親しむようになることを目指して、本プロジェクトが開始された。</p> <p>1 2 協力内容</p> <p>（1）上位目標 配布対象地域で、知識欲に富み、読書に親しむ人材が増加する。</p> <p>（2）プロジェクト目標 配布対象校の子どもたちが自主的に本を読むようになる。</p> <p>（3）成果 学校に図書が設置される。 学校の図書の種類が増加する。 図書担当教員によって子どもたちが図書を利用できる環境が確立される。 読み聞かせや読書活動が授業に取り入れられる。 学校での読書活動が継続的に実施される。 読書環境に関するデータベースが整備される。</p> <p>（4）投入（評価時点） <日本側></p>	

人材

プロジェクトマネージャー1名、プロジェクトコーディネーター1名(以上、日本人)、業務統括責任者1名、業務アシスタント4名、専門家アドバイザー1名(以上、ラオス人)

資機材

車輜(1) パソコン(3) プリンター(1) スキャナー(1) コピー機(1) カメラ(1) テレビ(1) ビデオデッキ(1) カセットレコーダー(1) 図書箱/図書袋(計1,000セット) 図書(約32万冊) 読書推進ハンドブック(5,000冊)

<ラオス側>

人材

国立図書館読書推進局スタッフ2名

施設

図書配布のためのセミナー会場

2. 評価調査団の概要

調査者	団長 佐久間 潤 JICA 人間開発部第一グループ基礎教育第一チーム長
	評価計画 十河 佳子 JICA 人間開発部第一グループ基礎教育第一チーム
	評価分析 於勢 泰子 グローバルリンクマネジメント株式会社
調査期間	2005年5月8日~2005年5月19日
	評価種類: 終了時評価

3. 評価結果の概要

3.1 実績の確認

(1) プロジェクト目標の達成度

図書袋・図書箱は、モニタリングを実施した80%以上の学校では、図書が活用され、適切に維持管理されている。また、多くの学校では、読書活動が授業に取り入れられ、子どもは読書に興味を持つようになり、学習意欲も増し、プロジェクト目標である「配布対象校の子どもたちが自主的に本を読むようになる」は概ね達成されている。さらに、配布された図書は、子どもだけでなく、親や地域住民にも貸し出され、読書の楽しみは親や地域住民にまで広がっており、上位目標である「配布対象地域で、知識欲に富み、読書に親しむ人材が増加する」も、達成の方向にある。しかし、遠隔地の配布対象校では、図書袋・図書箱の配布後、予算不足の理由から、郡の教育指導官によるモニタリング(読書推進活動の指導)が行き届いておらず、図書の活用・維持管理状況が把握できていない。今後は、教育指導官が、遠隔地の学校に対しても図書の活用・維持管理に関して適切な指導が行えるように、教育省による予算措置が重要であると思われる。

(2) 成果の達成度

1) 成果1: 学校に図書が設置される。

読書推進に熱意を示していた学校や、以前に本の配布を受けたことがない学校が、優先的に選定され、図書袋・図書箱が、7県1,000校の小学校に配布され、有効活用されていることが確認された。

2) 成果2: 学校の図書の種類が増加する。

子どもが読み親しめる図書を増やすために、毎年2タイトル、3年間で計6タイトルの図書が出版

され、補充対象校 10 県 1,000 校に補充され、子どもに読まれていることが確認された。また、子どもの読書への興味を持続させるために、ALC は、今後も子ども向けの図書の出版に力を入れる意向である。

3) 成果 3 : 図書担当教員によって子どもたちが図書を利用できる環境が確立される。

多くの配布対象校で、図書担当教員によって、図書が適切に維持管理され、子どもが読書を楽しむ環境が、多くの学校で整備されていることが確認された。図書担当教員が図書配布セミナーで学んだ維持管理のノウハウや、教育指導官によるモニタリングが大いに有益であったと思われる。一部の対象地域では、優秀な図書担当教員が表彰されるという制度が導入されつつあり、図書担当教員の読書推進に対する意欲を促すための工夫が行われていることも確認された。

4) 成果 4 : 読み聞かせや読書活動が授業に取り入れられる。

配布対象校のほとんどで、読み聞かせや読書活動が授業の中に取り入れられており、教員によっては、本の要約・感想を書かせたり、本の内容をクイズにするなど、独自の工夫をこらしている。また、子どもには特に民話の人气が高く、民話をラオス語の教材として使用している学校が多いことも確認された。このような図書の有効活用は、図書配布セミナーでの指導や、教育指導官によるモニタリングの大きな成果であると考えられる。しかし、遠隔地の学校では、図書の配布後、教育指導官によるモニタリングが行き届かず、図書が有効活用されていない学校もあった。今後は、遠隔地の学校へのモニタリングを定期的実施することが重要な課題である。

5) 成果 5 : 学校での読書活動が継続的に実施される。

都市部の学校へは、教育指導官によるモニタリングが行き届いており、読書活動が継続的に実施されている。一方で、遠隔地の学校では、教育指導官によるモニタリングが行われておらず、図書の活用・維持管理状況が把握されていない学校もあることが確認された。今後、教育省は、教育指導官によるモニタリングを遠隔地の学校にまで徹底させるために、教育指導官の出張費用を十分に確保する努力をする必要がある。この点については、調査団から教育省に対し、申し入れを行い、教育省からも努力するとの回答があった。

6) 成果 6 : 読書環境に関するデータベースが整備される。

図書の配布校に対してはベースライン調査が、図書の補充校に対してはモニタリング調査が、それぞれ実施された。本プロジェクトでは、新規に図書を配布した学校に対しては、翌年に図書の補充を行っているため、その際にモニタリングを行った。遠隔地の一部の学校では、教育指導官によって訪問されておらず、質問票が未回収になっている。しかし、ベースライン及びモニタリング調査の結果を踏まえてデータベースを整備したことは、本プロジェクトの大きな成果であり、今後の図書の配布・補充の際に有効活用されることが期待できる。

(3) 実施プロセス

- プロジェクトの計画及び実施を通じて、ALC、国立図書館、教育省の三者間での連携が図られ、対象校の選定、図書袋・図書箱の配布、セミナーの開催、モニタリングなどが効果的に行われた。

- 図書配布セミナーでは、各学校が、図書の維持管理や有効活用を自立的・持続的に行えるように、できる限り現場にあるものを使用して指導する工夫がなされた。
- 教育省に派遣されている JICA 専門家（教育政策アドバイザー）のイニシアティブのもと、2003 年度に「民話コンテスト」が実施された。その際、ALC や他の NGO が教育支援活動の対象としている郡が同コンテストの対象校になった。ALC は、同コンテストの運営に対する側面支援を行い、JICA 専門家や他の NGO と効果的な連携を図ることができた。

3 2 評価結果の要約

(1) 妥当性

妥当性に関しては、ラオス政府の政策との整合性、日本政府の援助政策との整合性、対象地域及びターゲットグループ選定の適正度、地域住民のニーズとの整合性、ALC の事業理念との整合性、の観点から評価を行ったところ、以下のような理由により、本プロジェクトの妥当性は高いと判断された。

と に関しては、ラオス政府は、基礎教育の拡充を重点課題として掲げており、国立図書館は、1990 年に「移動図書箱運動（読書推進運動）」を開始した。ALC は 1992 年以来、同運動を支援しており、その支援を強化する形で、本プロジェクトが実施されたことから、本プロジェクトの主旨は、ラオス政府の教育政策及び ALC の事業理念と合致していると判断できる。 に関しては、日本政府は、対ラオス援助政策において、特に、人間の基本的ニーズ（Basic Human Needs: BHN）分野で基礎教育の充実に力を入れており、本プロジェクトの主旨は、日本政府の援助政策とも合致している。 に関しては、対象地域の選定の際には、各県・市の中から配布対象校を選ぶ際には、教材が不足している貧困地域や、過去に図書の配布を受けたことがない地域が優先的に選定されたことは、読書推進の持続性の面だけでなく、基礎教育の地域間格差を縮小する意味においても適切であったと判断できる。 に関しては、プロジェクトを通じて配布された図書は、子どもだけではなく、親や一般の地域住民にも貸し出されており、住民が本に接する機会を与えられたことを喜んでいる。特に、ラオス語の基礎の本や民話は、子どもだけでなく大人にも人気があることから、配布図書が地域住民のニーズを反映していたと言える。

(2) 有効性

図書袋・図書箱の配布・補充、図書担当教員による図書の適切な維持管理、教育指導官による読書推進指導、ALC・国立図書館・教育省によるモニタリングなどの活動を通じて、六つの成果がほぼ予定通り達成されている（一部遠隔地の配布対象校を除く）。その結果、子どもを始めとする地域住民は読書に親しむようになっており、六つの成果が、プロジェクト目標の達成に貢献しており、本プロジェクトの有効性は、高いと評価できる。

(3) 効率性

本プロジェクトに投入された資機材を限られたプロジェクト関係者が有効に活用することにより、プロジェクト期間の 3 年間で、成果 1～6 までは確実に達成されており（一部遠隔地域を除く）、本プロジェクトの効率性は高い。特に、当初目標としていた 1,000 校への図書の新規配布と補充は、ALC と国立図書館だけでなく、教育省及び県・市・郡の教育局を含めて、配布校の選定・配布・モニタリング・補充の一連の作業を効果的に行った結果、達成されたものである。

(4) インパクト

本プロジェクトを実施したことによる正のインパクトとしては、子どもの学習意欲の高まり、教員の教育意欲の高まり、少数民族の子どもに対するラオス語教育への貢献、読書の重要性に対する親の認識の高まり、大人の識字教育の教材としての配布図書を活用、などがあげられる。

に関しては、具体的には、子どもたちの学校への出席率の上昇、ラオス語の読み書き能力の向上、読書への関心の高まり、などがあげられる。に関しては、図書が配布された学校では、教員が積極的に図書を教材として活用し、授業に工夫をこらすようになっている。に関しては、少数民族の子どもは、教科書が特に不足しがちな遠隔地域に居住している。プロジェクトで配布された図書は、ラオス語の教科書代わりとして活用されており、少数民族の子どもへのラオス語教育に大きく寄与している。に関しては、子どもたちだけでなく、親も、学校で本を借りて読書に親しんでいる。また、本を学校から借りて家に持ち帰り、親に本を読み聞かせてもらう子どもがいる一方で、借りてきた本を非識字の親に読み聞かせている子どももいる。このように、読み聞かせを通じて、親子のコミュニケーションが図られ、また、親が学校での読書活動の重要性を認識するようになっている。に関しては、地域によっては、小学校やコミュニティーセンターで、非識字の大人を対象として識字教育が実施されており、本プロジェクトで配布されたラオス語の基礎の本や簡単な民話などは、ラオス語教育の適切な教材として有効利用されている。そのため、本プロジェクト終了後も、継続的に図書が補充、配布されれば、「配布対象地域で、知識欲に富み、読書に親しむ人材が増加する」という上位目標は達成が見込まれる。

負のインパクトとしては、他機関によって配布された図書の貸出が停止されていた学校があったことがあげられる。本プロジェクトで、図書を配布する際に行われたセミナーで、図書担当教員は、図書の貸出状況・利用者数をきちんと記録するようにと指導されていた。担当教員が研修での指示に忠実になり過ぎたあまりに、他機関からの図書と本プロジェクトで配布された図書を混同させてはいけないと思いこみ、他機関から配布された図書の貸出を停止している学校もあった。そのような学校に対しては、プロジェクト関係者が訪問時に、他機関と ALC の図書を一緒に学校で管理し、双方からの図書を子どもに貸し出して良いことを伝えた。

(5) 自立発展性

本プロジェクトを 効果の持続性、実施体制の持続性、の観点から評価したところ、受益者のニーズが今後も存在し、そのニーズに応える施策が準備されていることから、本プロジェクトの効果と実施体制の持続性は高いと判断した。さらに、本プロジェクト終了後も、読書推進活動の拡充を目指して、ALC がフェーズ に関する具体的なアイデアを有していることから、本プロジェクトの自立発展性は概ね高いと評価できる。ただし、ラオス側が自立的に読書推進活動を継続していくためには、教育省の十分な予算確保が不可欠である。

に関しては、子ども、教員、親、地域住民が、本プロジェクトを通じて既に読書に親しんでおり、特に、教員や親が読書の重要性を認識していることから、今後も、読書活動が授業に取り入れられ、配布図書が有効利用されるものと考えられる。また、図書箱・図書袋の有効活用のアイデアをさらに発展させて、図書室の設置を検討している小学校もある。図書の配布地域によっては、住民が、材木や労働力の提供により、図書室設置に協力することや、住民からの寄付を募って図書の購入を検討している地域もあり、本プロジェクト終了後も、地域住民が自立的に読書推進活動を継続していくものと考えられる。また、ALC は、2006 年度にフェーズ II を実施したいという意向を示している。具体的には、新

規図書の出版、既配布校への図書の補充、図書担当教員へのフォローアップ指導などの活動に取り組むことを検討している。

に関しては、本プロジェクトの中で、ALCが単独で配布対象校に働きかけてきたのではなく、国立図書館、教育省、県・市・郡の教育局とパートナーシップを築きながら本プロジェクトを実施してきた。具体的には、郡の教育指導官が、一般教科の教授指導のために学校を訪問する際に、必ず読書推進活動についても指導することを教育指導官に義務づけた。したがって、本プロジェクト終了後も、ラオス側のオーナーシップの基で、読書推進活動を継続していく体制が構築されていると言える。しかし、ラオス教育省は、予算不足の問題に直面しており、現在、教員への給与も定期的に支払えない状況に陥っている。本プロジェクトで構築された読書推進のメカニズムを今後も効果的に実施していくためには、教員や教育指導官の給与の確保を含めた財政面の強化が不可欠である。

3 3 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること

ALC・国立図書館・教育省が協力して、図書の配布時に、セミナーを開催し、各学校の図書担当教員に対して、図書の貸出方法、破損図書の補修方法、読み聞かせやゲームを通じた図書の活用方法、などを指導してきた。これらの指導事項は、図書担当教員からも好評であり、彼らが自校で図書の維持管理や読書推進活動を行う際に、積極的に取り入れられている。その結果として、適切な図書の維持管理が行われ、かつ、子どもの興味を促す読書推進活動が実施されてきたと考えられ、図書の配布時に、セミナーを開催した意義は大きい。

(2) 実施プロセスに関すること

本プロジェクトでは、図書を配布した翌年に、図書の補充を行うと同時に、図書の維持管理や活用に関して、モニタリングを行っている。図書の補充は、子どもが同じ本に飽きることを防ぎ、子どもの読書意欲への維持に貢献している。また、図書の維持管理や活動に関するモニタリングを行うことにより、傷みの激しい図書の修復方法や、授業での読書活動の工夫の仕方などを、図書担当教員に指導することができ、ひいては、子どもが読書に親しむための環境整備に寄与していると言える。

3 4 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること

特になし

(2) 実施プロセスに関すること

プロジェクトで配布された図書袋・図書箱は、ほとんどの学校で適切に維持管理が行われている。しかし、図書担当教員が異動した後に、後任の教員が任命されないままになっている学校もあり、モニタリングを行った学校のうち10~20%ほどの学校では、セミナーの指導に基づいた維持管理が行われていなかった。

教育指導官は、図書袋・図書箱が配布された学校を訪問し、一般科目の教授法とともに、読書推進活動の方法についても指導を行うことが義務付けられている。しかし、遠隔地の学校は、日帰りで訪問することができないので、交通費・宿泊費・日当などの費用が必要になる。教育省や県・郡の教育局は、

予算不足のため、教育指導官の遠隔地への訪問必要経費を負担することができない。したがって、教育指導官は、遠隔地の学校には指導に訪れておらず、遠隔地の学校では、図書の活用状況が把握されていない学校もある。今後、教育指導官が遠隔地の学校にまで訪問できるように、教育省及び関連機関は何らかの対策を講じる必要がある。

3 5 結論

プロジェクトで期待されていた6つの成果は、一部の遠隔地域を除いて、ほぼ予定通り達成されている。配布対象校の子どもは、自主的に本を読むようになり（プロジェクト目標）、さらに、読書に対する親しみが地域住民にまで広がっている（上位目標）。したがって、プロジェクト目標は、概ね達成され、上位目標も達成の方向にあると評価できる。本プロジェクトの開始前から、一般教科に関しては、教育指導官による各学校への訪問指導が行われていたが、本プロジェクトの実施により、読書推進に関する指導も、教育指導官の指導科目として位置づけられるようになったことは、大きな成果である。しかし、教育省の予算不足により、遠隔地の学校への指導は十分に行き届いていないのが現状である。また、教員や教育指導官への給与未払い、教科書不足、教員不足など、ラオス政府は基礎教育に関する様々な問題を抱えており、それらの問題が、読書推進活動の妨げになっている。ラオス側にとっては、それらの問題にどのように対処するか、そして、ALCにとっては、それらの問題を踏まえた上で、どのように読書推進活動を継続・展開していくかが今後の課題である。

3 6 提言（当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言）

歴史・文化的背景により、活字文化の発達が遅れてきたラオスにおいて、子どもの識字率向上や基礎教育の充実のために、今後も、読書推進活動を支援することが望まれる。

読書推進活動を効果的に実施するためには、教育関連の JICA 専門家や技術協力プロジェクトの関係者の実施団体が、図書の作成やイベントの実施などにおいて、連携を図りながらプロジェクト活動を行うことが重要である。

< 対実施団体 >

本プロジェクト終了までに、第3年次にサラワン県で行った図書の配布・補充に対するモニタリング活動を実施する必要がある。

子どもを始め、想定される受益者に、読書の楽しみをさらに享受してもらうためにも、様々な種類の図書があることを知らせていくことが重要である。

図書担当教員が、読書推進活動に意欲と誇りを持ち続けられるように、優秀な担当教員の表彰制度を普及させていくことが望まれる。

教員数が少なく、図書担当教員が、クラス担任と図書担当の複数の役割を担っている学校では、図書担当の副担当の配置や児童ボランティア（図書係り）の育成などの工夫を行うことが求められる。図書の活用・維持管理が適切に行われていない学校では、図書の活用・維持管理状況のモニタリングや図書の利用方法の指導などに関して、校長先生がイニシアティブをとって、教員に積極的に働きかけていくことが重要である。

本プロジェクトの効果が途切れないように、ALC はフェーズ 1 のプロポーザルを 2005 年度のできるだけ早い時期に作成し、フェーズ 2 に向けての準備をすることが望ましい。

< 対ラオス政府 >

教育指導官によるモニタリングが、遠隔地の配布対象校にも行き届くように、十分な予算確保に努めるか、あるいは、その代替手段を検討する必要がある。

教員が読書活動の推進意欲を失わないように、教育省に対しては、教員に対して定期的に給与を支払うための対策を講じることが求められる。

3 7 教訓（当該プロジェクトから導き出された他の類似プロジェクトの発掘 / 形成、実施、運営管理に参考となる事柄）

プロジェクト関係者が、実際に現場を直接訪問するモニタリングの方法は、プロジェクト活動を円滑に実施するために効果的である。

物資の供給（本プロジェクトの場合は図書の配布であった）とあわせてその物資の関連情報をセミナー等で提供、説明することは、物資の正しい活用・活用体制の実施を徹底する上で有効である。

教育行政が十分に機能していない国で教育分野のプロジェクトを実施する際には、当該プロジェクトの中で、教育行政を強化するための活動を併行して実施する必要がある。

草の根型案件では、現場に対して、直接働きかけるというアプローチを採りながらも、プロジェクト効果を広範囲に普及させるためには、中央・地方政府を含めたトップダウン方式による指示システムのメカニズム確立が不可欠であり、同メカニズムの確立が、プロジェクト活動の拡大・継続に大きく貢献する。

JICA-NGO 連携では、実施団体が JICA のその他の事業と連携することにより、プロジェクト効果の普及を促進することができる。

以 上

目 次

序 文
地 図
写 真
略 語 表

評価調査結果要約表

第1章 終了時評価調査の概要.....	1
1 1 調査団派遣の経緯と目的.....	1
1 2 調査団の構成.....	1
1 3 調査日程.....	1
第2章 プロジェクト概要.....	3
2 1 プロジェクトの設立と経緯.....	3
2 2 概要.....	3
2 3 プロジェクト要約.....	3
第3章 PDMe と評価の方法.....	5
3 1 PDMe.....	5
3 2 評価の方法.....	5
第4章 評価結果.....	6
4 1 計画達成度.....	6
4 1 1 投入.....	6
4 1 2 活動.....	6
4 1 3 成果.....	9
4 1 4 プロジェクト目標.....	15
4 1 5 上位目標.....	16
4 2 実施プロセス.....	16
4 2 1 プロジェクトの実施体制.....	16
4 2 2 プロジェクト実施における問題点.....	17
4 3 評価5項目による評価.....	17
4 3 1 妥当性.....	17
4 3 2 有効性.....	19
4 3 3 効率性.....	19
4 3 4 インパクト.....	19
4 3 5 自立発展性.....	21
4 4 草の根型案件に特に必要と思われる横断的視点からの評価.....	23
4 4 1 実施団体の事業理念との整合性.....	23

4 4 2	地域住民へのプロジェクトの広報活動	24
4 4 3	プロジェクト関係者のエンパワーメント	25
4 4 4	草の根型案件の特性	26
4 4 5	その他の JICA 事業との連携	27
4 5	結論	28
第 5 章	提言と教訓	29
5 1	提言	29
5 2	教訓	29
付 属 資 料	31
1 . PDM0	33
2 . PDM1	34
3 . 調査要約表 (英文版)	35
4 . 評価グリッド	45
5 . 面談記録	53
6 . 調査報告会出席者一覧	66
7 . ラオス教育事情資料	67

第1章 終了時評価調査の概要

1 1 調査団派遣の経緯と目的

2002年12月から3年間、実施団体であるNPO法人ラオスのこども(ACTION WITH LAO CHILDREN:ALC)との開発パートナー事業「ラオス読書推進運動支援プロジェクト」として、実施してきた本事業の協力終了を2005年12月に控え、プロジェクト目標の達成状況等を把握し、プロジェクト・デザイン・マトリックス(Project Design Matrix:PDM)に基づき、5項目(妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性)の観点から評価すると共に、類似案件等に対する教訓、提言を導き出すことを目的とする。

1 2 調査団の構成

団 長	JICA 人間開発部	第一グループ基礎教育第一チーム	チーム長	佐久間 潤
評価企画	JICA 人間開発部	第一グループ基礎教育第一チーム	職員	十河 佳子
評価分析	グローバルリンクマネジメント株式会社			於勢 泰子

1 3 調査日程

日付	時間	訪問先	面会者・内容
5月8日(日)	移動日:東京→バンコク(バンコク泊)		
5月9日(月)	ヴィエンチェン到着(9:30)		
	10:30~12:00	JICA ラオス事務所	プロジェクト関係者にて打合せ (JICA 担当者・ALC スタッフ)
	13:45~14:00	国立図書館	Kongdeuane Nettavong(館長)と顔合わせのみ
	14:20~15:00	教育省教員養成局	Sengdeuane Lachanthaboun(局長)
	15:00~16:15	教育省普通教育局	・Somdy Phanthasouk ・Khammeuane Bounphamany
5月10日(火)	16:30~18:00	JICA ラオス事務所	沢田誠二専門家(教育省アドバイザー)
	09:00~10:00	ヴィエンチェン県教育局	コーディネーター、小学校の教員
	10:30~12:00	ノンサワン小学校	校長・図書担当教員・教育指導官
	14:00~15:30	ポンカム小学校	校長・図書担当教員・教育指導官
5月11日(水)	16:00~16:30	シータン先生の図書室	校長・図書担当教員・教育指導官
	09:00~10:00	チャンパサック県教育局	局長・コーディネーター
	10:30~12:00	ソンパーク小学校	校長・図書担当教員・教育指導官
5月12日(木)	14:00~16:00	トモタ小学校	校長・図書担当教員・教育指導官
	10:00~10:45	セコーン県教育局	副局長・コーディネーター
	11:00~12:30	バンベン小学校	校長・図書担当教員・教育指導官
5月13日(金)	14:00~16:00	サトゥアヌア小学校	校長・図書担当教員・教育指導官
	移動日(→ヴィエンチェン市) 官団員(佐久間団長、十河団員)の到着		
5月14日(土)	13:30~15:30	子ども文化・教育センターを見学	
	15:40~16:30	本屋、市場の書籍売り場などを見学	
5月15日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料整理 ・ ALC スタッフにインタビュー(赤井・近藤氏) 		

5月16日(月)	10:00~12:00	ローンケン小学校(ヴィエンチェン県)	校長・図書担当教員・教育指導官
	14:30~16:20	ALC	ラオスの子ども(Ms. Somphet)・国立図書館館長(Kongdeuane Nettavong)
	16:30~17:45	シャンティ国際ボランティア会(SVA)	川村 仁プロジェクトマネージャー
5月17日(火)	午前	資料整理	
	14:00~16:00	調査結果報告会(@子ども教育・文化センター)	
5月18日(水)	移動日: ヴィエンチェン→バンコク→東京(機内泊)		
5月19日(木)	帰国		

第2章 プロジェクト概要

2 1 プロジェクトの設立と経緯

植民地時代の教育政策の影響、ベトナム戦争の混乱、アジア経済危機による経済の疲弊など様々な要因により、ラオスの学校教育は様々な課題をかかえている。子どもの読書活動は、言葉を学び、表現力を高め、創造力を豊かにする上で重要であるが、ラオスでは特に子ども向け図書への不足は深刻であり、また学校図書室の整備も遅れており、子どもたちの識字能力向上や基礎教育普及を妨げる一因となっている。このような状況を改善するため、ラオス国立図書館は全国の学校教育への図書導入を目指し、1990年から「読書推進運動」を展開してきた。本事業実施団体である ALC は国立図書館からの支援要請を受けて 1992 年からこの運動に協力しており、出版、図書箱、図書袋の配布・読書推進セミナー等の活動について一定のノウハウを蓄積してきた。

2002 年 12 月から 3 年間、実施団体との開発パートナー事業「ラオス読書推進運動支援プロジェクト」として、「読書推進運動」に協力し、読書環境を改善し、学校教育を充実させることを目的に、ラオス人作家による子ども向けの図書の出版、図書箱、図書袋の配布及び補充、学校の図書担当教員へのセミナー等の活動を実施している。そして、最終的には図書の活用により、子どもの識字と学校教育の充実という両面から、教育環境の向上を図り、基礎教育普及に貢献することを目的としている。

2 2 概要

- (1) プロジェクト名：開発パートナー事業「ラオス読書推進運動支援」
- (2) プロジェクト協力期間：2002 年 12 月 2 日～2005 年 12 月 1 日（3 年間）
- (3) プロジェクトサイト：ラオス国内の図書配付予定地域 10 県（カンムワン県、サワンナケート県、サイソンブン特別区、ヴィエンチャン県、ヴィエンチャン特別市、フアパン県、チャンパーサク県、ボーケオ県、セコン県、サラワン県）
- (4) ターゲットグループ：配付対象延べ 2,000 校の小中学校の児童生徒
- (5) プロジェクトの実施機関
 - ラオス側：国立図書館
 - 日本側：JICA、NPO 法人ラオスのこども

2 3 プロジェクト要約

- (1) 上位目標
 - 配付対象地域で、知識欲に富み、読書に親しむ人材が増加する。
- (2) プロジェクト目標
 - 配付対象校の子どもたちが自主的に本を読むようになる。
- (3) 成果
 - 学校に図書が設置される。
 - 学校の図書の種類が増加する。
 - 図書担当教員によって子どもたちが図書を利用できる環境が確立される。
 - 読み聞かせや読書活動が授業に取り入れられる。

学校での読書活動が継続的に実施される。
読書環境に関するデータベースが整備される。

(4) 活動

- 1-1 図書箱・図書袋を製作する。
- 1-2 図書箱・図書袋を 7 県の小中学校に配付する。
- 2-1 ラオス語の子どもの本を出版する。
- 2-2 既に図書を配付した小中学校に図書を補充する。
- 3-1 配付時に図書担当教員を対象に読書推進セミナーを開催する。
- 4-1 学校での指導用に読書推進ハンドブックを配付する。
- 4-2 セミナー時に読書推進ハンドブックを教材として使用する。
- 5-1 教育指導官を対象に読書推進セミナーを行う。
- 5-2 教育指導官が配付対象校の読書推進活動を指導する。
- 6-1 配付対象校でのモニタリング・読書環境調査の結果を集計・分析する。

第3章 PDMe¹と評価の方法

3 1 PDMe

プロジェクト開始直後の2002年11月26日²に作成されたPDMに基づいて、プロジェクトの活動は実施されてきた。その後、2004年2月23日に、活動に若干の変更を加え、プロジェクト目標や成果の指標に具体的な数字を挿入するなどして、PDM1が作成された³。2004年4～5月にかけて実施された中間評価では、PDM1が使用された。その後も、プロジェクトはPDM1を指針として活動を実施してきたことから、終了時評価を行うにあたっては、2004年2月23日に改定されたPDM1をPDMeとして用いた（付属資料1：PDM0及び付属資料2：PDM1を参照）。

3 2 評価の方法

プロジェクトの終了時評価を行うにあたって、プロジェクト関連資料のレビュー⁴、プロジェクト関係者へのインタビュー、プロジェクト関係者へのアンケート、図書配布対象校への現場視察、などを通じて必要な情報を収集した。なお、終了時評価時のインタビュー対象者及び視察対象校は、以下の通りである。

表1：終了時評価調査でのインタビュー対象者

プロジェクト実施団体	ALC 職員
	JICA 本部及びラオス事務所職員
ラオス側カウンターパート	ラオス国立図書館職員
ラオス側プロジェクト関係者	教育省普通教育局及び教員養成局職員
	郡教育局の読書推進担当者・教育指導官
	図書配布対象校校長・図書担当教員
ラオス側プロジェクトの受益者	図書利用者（子ども、教員など）

表2：終了時評価調査団視察校

訪問日時	学校名	県名	学校規模			学校状況 ⁵	図書受領年度		
			生徒数	教員数	学級数		2002年度	2003年度	2004年度
5月10日	ノンサワン	ヴィエンチャン	265	12	10	完全校	図書箱	補充	
5月10日	ポーンカム		162	12	9	完全校	図書箱	補充	
5月11日	ソンパーク	チャンパサック	270	7	7	完全校			図書箱
5月11日	トモタ		47	2	2	不完全校	図書袋	補充	
5月12日	バンベーン	セコーン	133	6	5	完全校		図書箱	補充
5月12日	サトゥアヌア		32	1	2	不完全校		図書袋	補充
5月16日	ローンケン	ヴィエンチャン	63	7	4	完全校	図書袋	補充	

¹ PDMeのeは、「evaluation」を意味し、PDMeとは、評価する際の基準となる「評価用PDM」のことである。

² 2003年2月26日作成のPDMは、2002年11月26日作成の誤字・脱字を修正したものである。

³ PDMの具体的な変更箇所に関しては、別添1, 2を参照。

⁴ ALC作成の年次報告書、教育指導官による読書推進活動報告書の集計結果などを参考とした。

⁵ 「完全校」は、1～5年生までの児童が通う学校、「不完全校」は、1～5年生までの学年がそろっていない学校を指す。表2に記されている不完全校は、すべて1～3年生までの児童が通う学校であった。

第4章 評価結果

4 1 計画達成度

4 1 1 投入

日本側及びラオス側による本プロジェクトへの投入は、表3の通りである。

表3：プロジェクトへの投入

	日本側	ラオス側
人材	<日本人> ・ プロジェクトマネージャー (1) ・ プロジェクトコーディネーター (1) <ラオス人> ・ 業務統括責任者 (1) ・ 業務アシスタント (4) ・ 専門家アドバイザー (1)	国立図書館読書推進スタッフ (2)
資機材	・ パソコン (3) ・ プリンター (1) ・ スキャナー (1) ・ コピー機 (1) ・ ファックス (1) ・ カメラ (1) ・ テレビ (1) ・ ビデオデッキ (1) ・ カセットレコーダー (1) ・ 図書袋 / 図書箱 (1,000 セット) ・ 図書 32 万冊 ・ 読書推進ハンドブック 5,000 冊	
場所		図書配布のセミナー会場

4 1 2 活動

(1) 活動1：図書袋・図書箱の製作・配布

図書袋のデザインに関しては、ALC と国立図書館が、全体の大きさ、図書を入れるポケットの数、縫製の仕方などを指定して、縫製請負業者に製作を委託した。図書箱は、本プロジェクト開始前からラオス国立図書館による読書推進活動で用いられていた図書箱を参考にして、関係者間で話し合い、本プロジェクトで使用する図書箱のデザインを決定した。1989年に、国立図書館の館長がタイを訪問した際に、図書箱を見たことがきっかけとなり、ラオスにも導入された。

学校によって、図書袋か図書箱のいずれを配布するかは、配布先の校舎の整備状況、セミナー会場から学校までの距離、などを考慮して決定された。校舎に床があり、建物が丈夫な学校や、既に空き教室を図書室として利用することになっている学校に対しては、図書箱が配布された。また、セミナー会場から遠い距離にある学校に対しては、持ち帰りの負担を軽くするために、図書箱ではなく布製の図書袋が配布された。図書箱は、開くとそのまま本棚としても使用できる。図書袋は、布製で軽く、そのまま壁や窓につるして使用できるようになっている。なお、図書袋と図書箱に入れる図書は、子どもへの道徳教育として良いと判断されるものを ALC と国立図書館の職員が選定した。

図書の配布にあたっては、図書袋・図書箱に入れる図書を確保することに苦労したようである。ラオスには、口承文化の伝統があり、活字文化が根付いていないため、一般に書物が普及していない。ヴィエンチャン市内では、ラオス語の本が購入できる書店は、4店ほどである⁶。特に、子ども向けの本が不足しているので、プロジェクトで図書袋・図書箱を配布する際には、配布図書を調達することに、時間と労力を要した。早めに予約しているにもかかわらず、実際に購入する時期になると、在庫切れの状態になっていることもあった。このような問題を回避するために、2回目の配布以降は、さらに早めに予約するように工夫した。

(2) 活動2：図書の補充

プロジェクトでは、新規に図書を配布した学校に対しては、原則として、翌年に図書の補充を行った(後述の成果2の表6参照)。翌年に図書を補充することのメリットとしては、補充の際に、図書の活用状況をモニタリングできる、子どもが同じ本に飽きてしまうことを防ぎ、読書への興味を継続させることができる、などがあげられる。

また、プロジェクトでは、子ども向けの本を6タイトル(合計30,000冊)出版した。ラオスでは、出版物を出版する際に、情報文化省出版局の許認可を得なければならないが、その許認可を得るまでに、かなり時間を要するという問題があった⁷。

(3) 活動3：読書推進セミナーの開催

図書袋・図書箱を配布する際、配布対象校の図書担当教員を対象として、各県で図書配布セミナーが開催された。セミナー開催の通知は、ALCが県の教育局に文書で通知し、郡の教育局を通じて、配布対象校に案内状を送付した。しかし、初年度のセミナー開催前には、通知文書が非効率な郵便事情が原因で、配布対象校にまで連絡が届くのが遅れるという問題があった。次年度からは、ALCが、案内状をさらに早めに発送する、案内状の発送後、必ず確認の電話を入れる、などの方法で対処している。実際には、2003年度・2004年度ともに、配布対象校の図書担当教員97%が同セミナーに参加している。

同セミナーでは、図書担当教員が、図書袋・図書箱利用の重要性、図書袋・図書箱の設置、図書の登録、図書の閲覧と貸出、図書の維持と補修、図書利用記録と読書推進活動の報告の仕方、読書の意義と読書推進活動の重要性、などについて学習した。ALCや国立図書館の職員の他に教員養成学校の教員も、同セミナーの講師を務めた。また、セミナーの開催地域によっては、読書推進活動に特に熱心な図書担当教員を講師として招き、自分の学校での読書推進活動について講義をもらったケースもある。さらに、読書推進活動の具体的な方法として、読み聞かせ、紙芝居、歌などが紹介された。同セミナーは、3日間に渡って開催され、単なる一方的な講義だけではなく、グループワークも行われた。最終日には、小学校での読書推進活動や図書の貸出の実習も行われた。同セミナーでは、グループワークや実習が取り入れられていたので、参加者には好評であった。参加者へのアンケートによると、学習項目の70~100%を理解しているということである。

図書担当教員が、実際に自分の学校に戻って、図書の維持管理を開始すると、わからないことにも

⁶ ヴィエンチャン市内で、ラオス語の本を購入できる書店の数は、小さい書店もいくつか存在すると思われるので正確には把握できていない。

⁷ ラオスでは、すべての出版物に関して、出版にあたり、情報文化省出版許可局の許認可を得なければならないことになっている。

出くわしている。特に、教員の教育レベルが高くない地域では、セミナーでの指導内容に対する理解度が低かった。図書担当教員からは、再度、同様の研修を受講したいという声もあがっている。セミナーでは、教員養成学校の教員や、既に熱心に読書推進活動を行っている図書担当教員などが、講師を務めた。しかし、講師によって、指導方法や内容にばらつきがあり、すべてのセミナーにおいて、同レベルの講義内容を保つことが難しかった。優秀な講師を確保し、同レベルの講義内容を保つことは、今後の課題である。

(4) 活動4：読書推進ハンドブックの製作・配布

ALC、国立図書館、教育省普通教育局の三者が協力して、図書袋・図書箱の使い方を記載した「読書推進ハンドブック」が作成された。同ハンドブックは、図書配布セミナーにて、各校の図書担当教員と郡の教育指導官に配布された。セミナー参加者が3日間で学んだことをすべて記憶にとどめておくことは難しい。図書担当教員が、実際に各校で図書の維持管理を始めた後、わからないことが出てきた際に、読書推進ハンドブックを参考にしているとのことであった。

(5) 活動5：教育指導官を対象とした読書推進セミナーの開催

2005年2月22日～27日にかけて、サイヤプリ県にて、図書配布対象の10県から計20名の教育指導官を対象に、「読書推進指導研修」が開催された。各県から2名(1名は県のコーディネーター、もう1名は郡の教育指導官)が参加した。サイヤプリ県では、読書推進活動が熱心に行われており、多くの学校が図書担当として専任の教員を配置している。また、地域住民が協力して、図書室を建設した例もある。このように、サイヤプリ県の学校での読書推進活動のあり方は、読書推進活動のモデルになるのではないかと期待されている。読書推進活動の先進事例を他県の教育指導官が見学することにより、自校での読書推進に関する多くのヒントを得られるのではないかと考え、サイヤプリ県が、研修開催地域として選定された。同研修の終了後、各県の代表者に、今後の具体的な計画(案)を提出してもらった。これら10県の計画(案)は、1冊にまとめられた後、参加者全員に配布されることになっている。違う県の教育指導官同士が、同じ研修に参加した仲間として、その後計画を実行に移しているかどうかを、互いに確認しあうことができるようにすることが狙いである。

(6) 活動6：モニタリング

プロジェクトで行われたモニタリングの方法には、ALCから郡の教育指導官への質問票の送付・回収、ALCから教育指導官を通じての配布対象校への質問票の送付・回収、教育指導官による学校訪問、ALC・国立図書館・教育省の職員による学校訪問、の四つのパターンがあった。しかし、に関しては、十分な出張旅費が割り当てられていないという理由から、一部の遠隔地域では、教育指導官による訪問指導が行われていない学校があった。

なお、に関しては、2003年度には、5地域24校、2004年度には5地域33校を訪問して、モニタリングを行っている。プロジェクト関係者が、直接、学校を訪問することによって、図書の維持管理の方法について適切に指導することができると同時に、学校関係者が読書推進活動に、さらに意欲を示すようになるというメリットがあった。

4 1 3 成果⁸

本プロジェクトでは、プロジェクト目標を達成するために必要な成果として、六つの成果が設定されており、六つの成果は概ね達成されている。各成果の達成状況の詳細は、以下の通りである。

(1) 成果1の達成度

成果1	学校に図書が設置される。
指標1-1	7県の小中学校1,000校に、図書箱・袋が新規に配布される。

ALCは、1990年に国立図書館が開始した「移動図書箱運動(読書推進運動)」を1992年より支援してきた。本プロジェクト開始以前にも、ALCは、小学校への絵本の配布を行ってきた。また、ラオス国内では、他のNGOやUNICEFも、小中学校への図書の配布を行っている。本プロジェクトでは、図書の配布の重複を避けるため、既に図書が配布されている小中学校を新規配布の対象外とし、図書が行き渡っていない小学校を優先的に配布対象校として選定した⁹。プロジェクト期間中、図書が新規に配布された小学校の数は、表4に示す通りである。図書箱・袋を合わせて、目標通り1,000校に配布され、成果1は達成されている。なお、一つの図書袋・図書箱には、約140冊の図書が入っている¹⁰。

表4：図書袋・図書箱の配布状況

	第1年次 (2002.12-2003.3)		第2年次 (2003.4-2004.3)		第3年次 (2004.4-2005.3)		第4年次 (2005.4-2005.11)		合計
	図書袋	図書箱	図書袋	図書箱	図書袋	図書箱	図書袋	図書箱	
ヴィエンチェン市	11	40	0	40	0	0	0	0	91
ヴィエンチェン県	20	29	31	29	0	0	0	0	109
ホアパン	0	170	0	0	0	0	0	0	170
チャンパーサク	19	11	0	0	21	140	0	0	191
カムワン	0	0	0	40	0	0	0	0	40
セコン	0	0	20	50	0	0	0	0	70
ボーケオ	0	0	39	111	0	0	0	0	150
サワラン	-	-	-	-	49	130	-	-	179
合計	50	250	90	270	70	270	0	0	1,000

(2) 成果2の達成度

成果2	学校の図書の種類が増加する。
指標2-1	ラオスで6タイトル、計30,000冊の図書が増加する。
指標2-2	出版された図書が、補充対象校10県1,000校に補充される。

ラオスでは、伝統的に口承文化に大きく依存してきたことや、長期に渡るフランスによる植民地支

⁸ 「JICA事業評価ガイドライン(改訂版)」では、「成果」が「アウトプット」と記されているが、本プロジェクト開始時に作成されたPDMには、「成果」という用語が使用されているので、終了時評価報告書にも「成果」を用いることとした。

⁹ プロジェクトの計画時には、小・中学校への配布を予定していたが、まずは、小学校への配布を優先させることとした。

¹⁰ 図書袋及び図書箱一つあたりの中身は、約2万円相当分の図書。

配の影響で、ラオス語による読み書き文化の発達が妨げられてきた。現在でも、ラオスでは、本が極度に不足しており、子どものための図書は、年間 20 タイトル程度しか出版されていない。子どもが読み親しめる図書を増やすために、本プロジェクトでは、毎年 2 タイトル、3 年間で計 6 タイトルの本を出版した。ラオス人作家による子どもの本の出版状況は、表 5 に示す通りである。

子どもには、特に民話の人気が高かったが、「大亀ガウディ」は、話が長すぎる、絵が少ない、などの理由から、あまり人気が高くはなかったようである。どの学校でも、子どもの間では、絵の多い本に人気が集中している。

表 5：ラオス人作家による子どもの本の出版状況

	作成年度	タイトル	作者・画家(挿絵)・翻訳家	サイズ等	出版状況
1	2002 年度	孤児と小さなおばけ	作者：ドゥアンドゥアン・ブンヤヴォン 画家：ヴォンサワン・ダムロン スック	・B5 版 ・全ページカラー ・計 44 ページ	2003 年 2 月 下旬に 5,000 部を出版
2	2002 年度	大亀ガウディの海	作者：田島伸二 挿絵：田島和子氏 翻訳：ブント・ポンピッチド	・A5 版 ・表紙カラー ・本文白黒 ・計 116 ページ	2003 年 3 月 月上旬に 5,000 部を出版
3	2003 年度	孤児とその妻 ¹¹	作者：ドゥアンドゥアン・ブンヤヴォン 画家：ヴォンサトーン・ダムロン スック	・B5 版 ・全ページカラー ・計 41 ページ	2003 年 5 月 中旬に 5,000 部を出版
4	2003 年度	マニユイとチャンタイ	作者：シーナイ・カムソーン 画家：サンコム・シーウィライ	・B5 版 ・全ページカラー ・計 24 ページ	2004 年 1 月 下旬に 5,000 部を出版
5	2004 年度	シートン・マノラー ¹²	作者：シーサワイ・スワンニー 挿絵：ディムカー・スッタヴォン	・B5 版 ・本文 60 ページ白黒 ・挿絵 12 ページカラー	2004 年 8 月 中旬に 5,000 部を出版
6	2004 年度	詩で読む民話 ¹³	作者：フナルン・デンヴィライ 画家：ソンパヴァン・ケオミンムアン	・B5 版 ・全ページカラー ・本文 32 ページ (内挿絵 15 枚)	2004 年 10 月 下旬に 5,000 部を出版

本プロジェクトでは、上記の出版図書を補充対象校である 10 県 1,000 校に補充することを目指してきた。成果 2 でいう「補充」とは、既に図書を保有している学校に対する追加的な配布を意味する。したがって、補充対象校には、本プロジェクト開始以前に既に図書を保有していた学校、本プロジェクトで図書を新規配布された学校、の双方が含まれることになる。すなわち、プロジェクト第 1 年次で新規配布された学校は、第 2 年次以降の補充対象校となりえるということである。本プロジェクトでの補充対象校への図書の配布状況は、表 6 に示す通りであり、10 県 1,000 校への図書の補充という成果を達成している。

¹¹ ラオスの民話で、2002 年度に出版した「孤児と小さなおばけ」の続編。

¹² 1996 年に出版した古典読み物の改訂版。小学生にとっては長い物語であるが、読書意欲をそそるように挿絵を挿入した。

¹³ 低学年向けに、ラオス国内外の民話・童話 8 作品のあらすじを詩で表している。

表 6：補充対象校への図書の補充状況

	第1年次 (2002.12-2003.3)	第2年次 (2003.4-2004.3)	第3年次 (2004.4-2005.3)	第4年次 (2005.4-2005.12)	合計
ヴィエンチェン市	-	51	40	-	91
ヴィエンチェン県	-	49	60	-	109
サイソンプン	30	-	-	-	30
ホアバン	-	170	-	-	170
チャンパーサク	14	44	-	-	58
カムムワン	-	106	40	-	146
サワンナケート	-	40	-	-	40
セコン	-	-	70	-	70
ポーケオ	-	-	150	-	150
サワラン	-	-	-	136	136
合計	44	460	360	136	1,000

(3) 成果3の達成度

成果3	図書担当教員によって、子どもたちが図書を利用できる環境が確立される。
指標3-1	配布対象校の70%で、図書が利用可能な状態に維持・管理される。
指標3-2	配布対象校の50%で、図書担当教員が読書推進活動を実施する。

プロジェクトで配布された図書袋・図書箱は、表7が示すように、ほとんどの学校で配布図書が登録され、図書の破損・紛失のチェックも行われており、成果3は達成されていると言える。破損図書の補修に関しては、図書の破損のチェックは行われているものの、実際に、図書配布セミナーでの指導に基づいて、図書を補修している学校は半数以下であった。その原因としては、図書担当教員が多忙であるために補修する時間がないこと、図書を補修するための道具が入手できないこと、図書配布セミナーに参加した担当教員がセミナーで教わったことを十分に理解していないこと、図書配布セミナーで補修方法の指導を受けた担当教員が異動になり、新しい担当教員が補修の仕方を知らないこと、などが考えられる。現在、優秀な図書担当教員の表彰制度の導入を検討しており、同制度の導入が、教員の図書の維持管理及び読書推進活動へのインセンティブになるものと期待されている。

しかし、表7のデータは、教育指導官による読書推進報告書の集計結果に基づくものである。遠隔地の学校での図書の維持管理及び読書推進活動の状況を把握し、教育指導官及びALC・国立図書館が、配布・補充対象校に対して適切な指導を行っていくことは、今後の課題である。

表7：配布図書の維持・管理状況¹⁴

1. 図書は、すべて登録されているか。											
	チャンパ ーサック	カンム ワン	ヴィエン チャン県	ヴィエン チャン市	サイソ ンブン	サワナ ケート	ホアバ ン	ポーケ オ	セコー ン	合計	%
サンプル数	44	106	109	90	29	40	170	149	70	807	
はい	42	82	103	88	26	34	148	141	60	724	90%
いいえ	2	24	3	2	3	4	20	6	10	74	9%
無回答			3			2	2	2		9	1%
2. 図書利用・貸出記録を集計しているか。											
	チャンパ ーサック	カンム ワン	ヴィエン チャン県	ヴィエン チャン市	サイソ ンブン	サワナ ケート	ホアバ ン	ポーケ オ	セコー ン	合計	%
サンプル数	44	106	109	90	29	40	170	149	70	807	
はい	44	74	93	80	21	30	150	105	57	654	81%
いいえ		28	12	10	8	9	19	37	12	135	17%
無回答		4	4			1	1	7	1	18	2%
3. 図書の紛失冊数は。											
	チャンパ ーサック	カンム ワン	ヴィエン チャン県	ヴィエン チャン市	サイソ ンブン	サワナ ケート	ホアバ ン	ポーケ オ	セコー ン	合計	%
サンプル数	44	106	109	90	29	40	170	149	70	807	
0冊	10	18	28	18	2	2	70	43	14	205	25%
5冊以上	19	29	36	27	8	5	56	39	26	245	30%
6～10冊	7	22	18	18	6	6	22	37	12	148	18%
10冊超	8	29	21	24	13	23	15	18	11	162	20%
無回答		8	6	3		4	7	12	7	47	6%
4. 図書の破損冊数は。											
	チャンパ ーサック	カンム ワン	ヴィエン チャン県	ヴィエン チャン市	サイソ ンブン	サワナ ケート	ホアバ ン	ポーケ オ	セコー ン	合計	%
サンプル数	44	106	109	90	29	40	170	149	70	807	
0冊	5	5	18	19	4	4	51	44	13	163	20%
5冊以上	26	39	45	34	10	8	52	54	30	298	37%
6～10冊	7	28	20	14	7	6	35	24	17	158	20%
10冊超	6	25	17	16	8	17	20	12	4	125	15%
無回答		9	9	7		5	12	15	6	63	8%
5. 図書の破損を補修したか。											
	チャンパ ーサック	カンム ワン	ヴィエン チャン県	ヴィエン チャン市	サイソ ンブン	サワナ ケート	ホア バン	ポーケ オ	セコー ン	合計	%
サンプル数	44	106	109	90	29	40	170	149	70	807	
はい	32	53	64	55	11	26	106	45	28	420	52%
いいえ	8	37	25	15	14	9	17	57	29	211	26%
無回答	4	16	20	20	4	5	47	147	13	176	22%

表8によると、調査対象校807校のうち、合計で90%以上が「読書推進活動を実施している」と回答している。ここでいう「読書推進活動」とは、読み聞かせ、紙芝居、歌、本を使ったゲームなどの活動を指す。図書担当教員は、これらの活動方法について図書配布セミナーで指導を受けており、

¹⁴ 2004年度の教育指導官による読書推進報告書集計結果による。質問票は810校に配布し、そのうち回収できたのは807校である。

その指導に基づいて、各校で読み聞かせや紙芝居などの活動を実践している。

表 8：読書推進活動の実施状況

1. 読書推進活動を実施しているか。											
	チャンパーサク	カムワン	ヴィエンチャン県	ヴィエンチャン市	サイソンブン	サワンナケート	ホアパン	ポーケオ	セコーン	合計	%
サンプル数	44	106	109	90	29	40	170	149	70	807	
4-5日/週	9	25	48	31	18	10	57	29	21	248	31%
1-2日/週	33	76	51	56	11	24	94	108	43	496	61%
いいえ		1	4	2		2	6	6	3	24	3%
無回答	2	4	6	1		4	13	6	3	39	3%
2. 読書推進活動を実施できる教員は、何名か。											
	チャンパーサク	カムワン	ヴィエンチャン県	ヴィエンチャン市	サイソンブン	サワンナケート	ホアパン	ポーケオ	セコーン	合計	%
サンプル数	44	106	109	90	29	40	170	149	70	807	
1名	18	39	13	4	3	4	15	52	21	169	21%
2名以上	23	57	82	82	25	26	137	67	33	532	66%
0	1	5	8		1	7	8	12	5	47	6%
無回答	2	5	6	4		3	10	18	11	59	7%

(4) 成果4の達成度

成果4	読み聞かせや読書活動が、授業に取り入れられる。
指標4-1	配布対象校の30%が、授業の時間割に読書推進活動を取り入れる。

表9が示すように、40%以上の配布対象校では、読書推進活動が授業に取り入れられ、また、70%以上の学校で、図書が授業で活用されており、成果4は十分に達成されている。読書推進活動の授業への取り入れ方としては、生徒個人での読書、先生による読み聞かせ、図書の内容の要約や感想の筆記、図書の内容に関するクイズの出題、などがある。また、ラオスでは、教科書が不足しており、簡単な民話やラオス語の基礎に関する図書が、ラオス語の教科書代わりとして使用されている学校もあった¹⁵。

¹⁵ 本終了時評価調査で訪問した学校及び教育局でのヒアリングによると、ラオスの学校では、平均して6~8人の生徒に対して教科書1冊の割合であるとのことであった。教員だけしか教科書を持っていない学校もあった。また、教育省に派遣されているJICA専門家によると、実際にはラオスでは、6~8人の生徒に対して教科書1冊という状況よりもひどい学校があるとのことであった。

表9：授業への読書推進活動の取り入れ状況
(教育指導官による読書推進報告書集計結果)

1. 読書推進活動を時間割に組み込んでいるか。											
	チャンバ ーサク	カンム ワン	ヴィエン チャン県	ヴィエン チャン市	サイソン ブン	サワナ ケート	ホアバン	ポーケオ	セコーン	合計	%
サンプル数	44	106	109	90	29	40	170	149	70	807	
はい	24	42	69	56	18	20	96	42	19	386	48%
いいえ	14	43	24	20	10	18	56	87	40	312	39%
無回答	6	21	16	14	1	2	18	20	11	109	14%
2. 図書を授業で活用しているか。											
	チャンバ ーサク	カンム ワン	ヴィエン チャン県	ヴィエン チャン市	サイソン ブン	サワナ ケート	ホアバン	ポーケオ	セコーン	合計	%
サンプル数	44	106	109	90	29	40	170	149	70	807	
はい	43	83	82	81	21	30	131	84	49	75%	
いいえ	1	18	22	7	7	6	29	52	16	20%	
無回答		5	5	2	1	4	10	13	5	6%	

(5) 成果5の達成度

成果5	学校での読書活動が、継続的に実施される。
指標5-1	教育指導官が、管轄区域内の全配布校を、1校あたり年1回巡回指導する。

教育指導官は、図書袋・図書箱が配布された学校を訪問し、一般科目の教授法とともに、読書活動の方法について指導を行っている。多くの学校では、教育指導官から適切な助言を受け、読書活動を継続的に行っている。しかし、遠隔地の学校は、日帰りで訪問することができないので、交通費・宿泊費・日当などの費用が必要になる。教育省や県・郡の教育局は、予算不足のため、教育指導官の遠隔地への訪問必要経費を負担することができない。したがって、教育指導官は、遠隔地の学校には指導に訪れておらず、遠隔地の学校では、図書の活用状況が把握されていない学校もある¹⁶。

(6) 成果6の達成度

成果6	読書環境に関するデータベースが整備される。
指標6-1	教育指導官が年1回、管轄区域の読書推進活動報告書を提出する。
指標6-2	配布対象校の読書環境に関するデータが整備される。

教育指導官は、一般教科の教育法など、教育全般に関することを指導することが義務付けられている。本プロジェクトの実施により、教育指導官の指導範囲は、一般教科だけではなく、読書推進に関する指導も、新たな指導項目として追加された。各郡には、3~4名の教育指導官がおり、各学校の指導にあっている。郡教育局へのヒアリングによると、教育指導官は、遠隔地の学校を除いて、ほとんどの学校に対して訪問指導を行っており、読書推進活動報告書も提出されているとのことである。しかし、遠隔地の学校に行くためには、交通費や宿泊費(1~2泊)が必要になる。現在、教育省の深刻な予算不足の問題から、交通費や宿泊費が賄われず、その結果、教育指導官の指導が遠隔地にま

¹⁶ セコーン県の遠隔地にある配布対象校の図書担当教員の中には、図書袋を受領するために、町のセミナー会場まで数日間かけてたどりつき、セミナーを受講し、図書袋を受領し、同日数を費やして学校に戻ったという教員もいた。

で行き届かない状況にある。

プロジェクトでは、図書を新規に配布する際に、ベースライン調査を実施し、原則として、新規配布の翌年に、図書の補充とモニタリングを実施した。配布対象校の読書環境に関するデータ整備は、2002年度・2003年度に、図書を配布した学校から、郡の教育指導官を通じて、質問票による図書活用状況及び読書推進活動の実施状況に関するデータが収集され、プロジェクトによって整備された。

表 10：読書環境に関するデータの整備状況

	第1年次 (2002.12-2003.3)				第2年次 (2003.4-2004.3)				第3年次 (2004.4-2005.3)				第4年次 (2005.4-2005.12)			
	配布	補充	B*	M*	配布	補充	B	M	配布	補充	B	M	配布	補充	B	M
ヴィエンチェン市	51		51		40	51	40	51		40		90				16
ヴィエンチェン県	49		47		60	49	60	49		60		109				23
サイソンプン*		30	30					20				29				15
ホアパン	170		166			170		168				170				23
チャンパーサク	30	14	44			44		44	161		161	44				15
カムムワン	0	0	62		40	106	39	64		40		106				16
サワンナケート*			40			40		39				40				13
セコン					70		57			70		70				15
ボーケオ					150		128			150		149				20
サワラン*									179		176			136		136
合計	300	44	440	0	360	460	324	435	340	360	337	807	0	136	0	292

*B: Baseline Survey、M: Monitoring の略。

第4年次の分モニタリングは予定数です

4 1 4 プロジェクト目標

プロジェクト目標	配布対象校の子どもたちが、自主的に本を読むようになる。
指標	配布対象校内で、在籍生徒数の延べ30%が図書を利用する。

本プロジェクトでは、図書を配布した翌年に、図書の活用状況に関してモニタリングが行われている。2003年度・2004年度のモニタリング結果によると、約80%以上の学校で、図書がよく活用されている状況であり、プロジェクト目標は、達成されている。「よく活用されている」かについては、

図書の裏表紙にある貸出カードの記録、図書利用記録・図書貸出記録、図書の汚れ具合、破損図書の補修状況、教員・子どもへのインタビュー、などを基に総合的に判断された。

なお、当初、指標データの入手手段として、図書利用記録・図書貸出記録を想定していたが、プロジェクト関係者が実際に学校を訪問してみると、図書利用記録・図書貸出記録がきちんと記録されていない学校も明らかになった。図書利用・図書貸出の状況は記録しているが、数字や記入欄が間違っている学校もあった。図書配布セミナーでは、図書利用記録・図書貸出記録のつけ方が指導されていたが、指導内容を十分に理解していない教員もいた。図書の維持管理を徹底させるためにも、図書担当教員に対するフォローアップが必要である。

表 11：図書の利用状況（モニタリング結果）

		よく活用されていた	あまり活用されていなかった
2003 年度	5 地域 24 校	20 校（83%）	4 校（17%） （*1 校は全く活用されていなかった）
2004 年度	5 地域 33 校	29 校（88%）	4 校（12%）

4 1 5 上位目標

上位目標	配布対象地域で、知識欲に富み、読書に親しむ人材が増加する。
指標	地域住民の図書利用冊数が増加する。

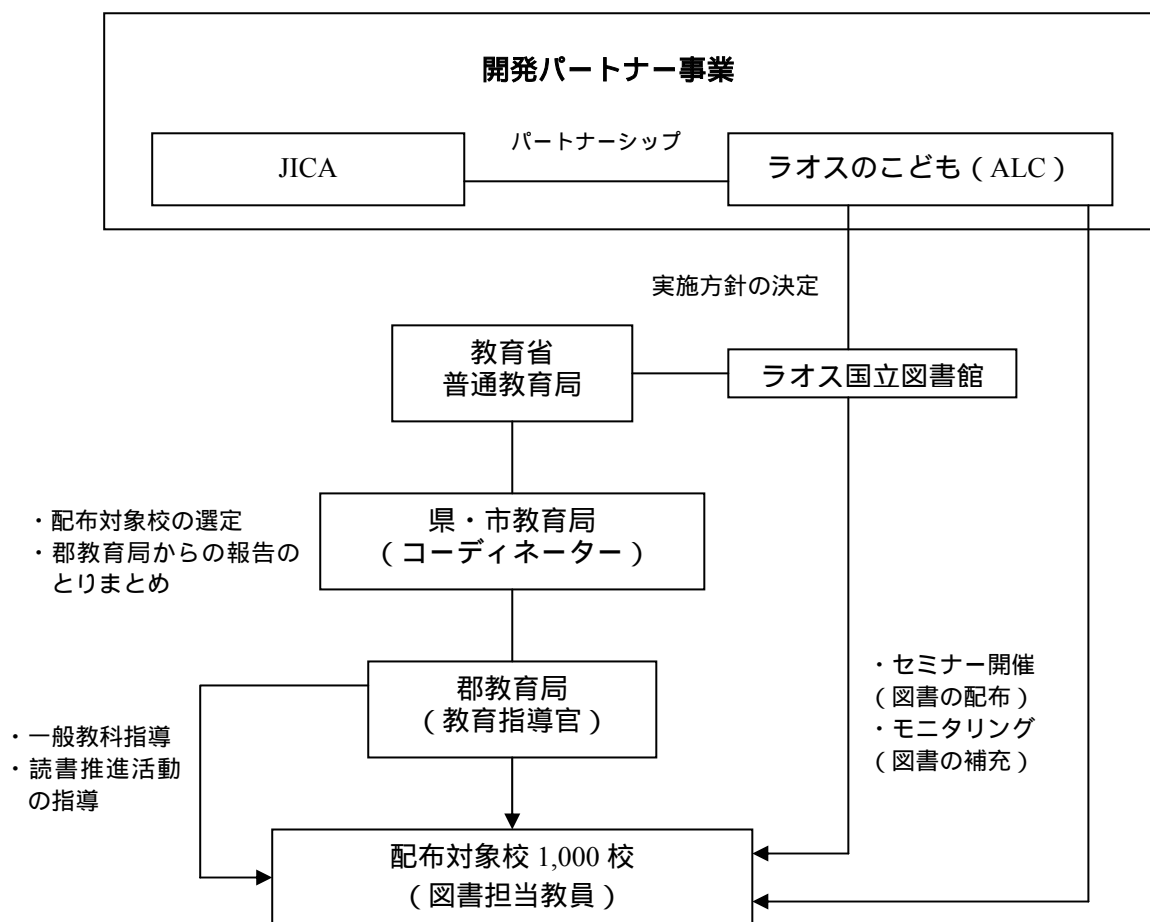
プロジェクトで配布された図書は、親や地域住民にも貸し出されている学校が多い。ラオスでは、本を読むという習慣が普及していなかったが、学校への図書の配布をきっかけとして、大人たちが読書に親しむようになってきている。民話は、大人にも人気があり、ラオス語の基本の図書は、非識字の大人が学習用として利用している。また、英語の入門書は、中学・高校で英語を学習する機会がなかった若者に、よく利用されている。このように、プロジェクトで配布された図書は、配布対象校の児童だけではなく、広く地域住民に利用されていることから、地域で読書に親しむ人材が増加傾向にあり、上位目標達成の方向にある。

4 2 実施プロセス

4 2 1 プロジェクトの実施体制

プロジェクトは、JICA からの資金援助を受けて、実施団体である ALC が、ラオス国立図書館がカウンターパート（Counterpart：C/P）とし、教育省とも連携しながら実施された（図 1 参照）。1990 年以降、国立図書館が、読書推進活動を実施してきたため、国立図書館が読書推進に関するノウハウを蓄積していたことに加え、館長の熱意と強力なサポートが得られたことが、プロジェクトの円滑な実施につながったものと思われる。

図1：プロジェクトの実施体制



4 2 2 プロジェクト実施における問題点

ラオス人プロジェクト関係者の中で、英語によるコミュニケーションが可能なメンバーが限られていたため、ALCの日本人職員が、限られたラオス人関係者と正確な意思疎通を図るのに苦労した。しかし、言語によるコミュニケーションの問題点は、双方のプロジェクトへの熱意でカバーされていたようである。

4 3 評価5項目による評価

4 3 1 妥当性

(1) ラオス政府及び日本政府の開発政策との整合性

ラオス政府の政策との整合性

近年、ラオスでは、人的資源開発に関する政策の中で、基礎教育の拡充と高等教育人材の育成に重点を置いている。基礎教育において、女子・少数民族の就学難や就学率の地域間格差は顕著となっており、さらに、校舎・教員・教材などの不足も、深刻な問題となっている。1990年の「万人のための世界教育会議」以降、ラオス政府は、基礎教育重視の政策を掲げ、基礎教育分野への二国

間・多国間援助が、増加傾向にある。

情報文化省の管轄下に属するラオス国立図書館は、1990年に「移動図書館運動(読書推進運動)」を開始し、全国の小学校に本を導入しようとする識字運動を展開してきた。ALCは1992年以来、同運動を支援しており、その支援を強化する形で、本プロジェクトが実施されている。したがって、本プロジェクトの趣旨は、読書を通じての識字教育を行うことにより、基礎教育の拡充を目指すというラオス政府の教育政策と合致していると言える。

日本政府の開発政策との整合性

日本政府は、対ラオス援助において、社会を担う様々な人材の育成(人作り)、人間としての基本的なニーズの充足(Basic Human Needs : BHN)、農林業の振興、社会・産業基盤の整備、の4分野に重点を置いている。ラオスでは、あらゆる分野において人材が不足しており、人作りが最重要課題となっている。特に、のBHN分野では、基礎教育の充実に力を入れている。小学校への図書の配布を通じて読書推進を図り、ひいては、基礎教育の拡充に寄与することを目指している本プロジェクトは、日本政府の対ラオス援助政策と合致していると言える。

(2) 対象地域及びターゲットグループ選定の適正度

本プロジェクトでは、10県1,000校を対象に図書が配布された。ラオス全国18県・市のうち、特に県の教育局が読書推進に対して熱意を示していた県・市が優先的に選定された。10県・市の選定にあたっては、特に貧困県・市を優先したわけではなかったが、各県・市の中から配布対象校を選ぶ際には、貧困地域が優先された。本プロジェクト開始前に、国立図書館、ALC、国際機関などから、既に図書を配布されていた学校は、配布対象校から除外され、できるだけ図書が不足している学校に行き渡るような配慮がなされた。しかし、それまでに図書が配布された学校名を記した正確なデータが存在せず、結果的には、図書を要請する声の大きい学校に配布されることになった¹⁷。また、図書の配布を希望する中学校のリストを提出してきた県・市の教育局もあったが、本プロジェクトの予算の関係上、中学校は配布対象校として除外された。

図書を必要としている小・中学校は、1,000校以上あったことは確かである。しかし、本プロジェクトでは、3年間という期間と予算の制約があったことから、基礎教育の拡充を重視して、まずは小学校を優先とし、以前に図書が配布されることがない学校に絞り込んだことは、適切であったと言える。本プロジェクトを通じて、図書の配布対象校に関するデータが整備されているので、今後は同データを活用し、既配布校へのフォローアップと、未配布校への新規配布が効率的に実施されるものと期待できる。

(3) 地域住民のニーズとの整合性

プロジェクトを通じて配布された図書は、子どもだけではなく、親や一般の地域住民にも貸し出されており、図書袋・図書館が配布された地域では、住民が本に接する機会を与えられたことを喜んでいる。ラオスでは、ほとんどの地域で教科書が不足しており、特に、ラオス語の基礎の本や民話は、ラオス語教育の授業で教科書の副読本として活用されている学校が多かった。プロジェクトでは、民

¹⁷ ユニセフによって配布された図書館には、図書の補充が行われていなかったため、既に図書館が配布されている学校であっても、図書補充の必要性から、教育局が新規配布リストに加えているケースもあった。

話が数多く配布されたが、民話は、子どもたちだけでなく多くの地域住民にも喜んで読まれている。また、英語の入門書は、地域の若者に人気があり、過去に学校で英語を勉強できなかった若者が、英語の入門書を借りていくケースが見られる。このように、プロジェクトでは、地域住民が興味を示す内容の図書をセットにして、図書袋・図書箱を配布し、地域住民に読書の楽しみを提供してきたことから、プロジェクトの内容は、地域住民のニーズと十分な整合性があると判断できる。

プロジェクトのモニタリングの際に、教員や子どもに「どのような本が欲しいか」と質問したところ、民話に人気が集中していたようである。しかし、彼らの興味が民話だけに集中しがちなのではなく、ラオスには、本の市場が小さく、一般に本が普及していないため、どのような種類の本が存在するかを知らないの、他のジャンルの本を思い浮かべることすら難しいように思われる。今後も、地域住民のニーズに応え続けるために、そして、彼らの興味の範囲を広げるためにも、様々なジャンルの本による刺激が必要となるであろう。

4 3 2 有効性

図書袋・図書箱の配布・補充、図書担当教員による図書の適切な維持管理、教育指導官による読書推進指導、ALC・国立図書館・教育省によるモニタリング、などの活動を通じて、六つの成果がほぼ予定通り達成されている（一部遠隔地の配布対象校を除く）。その結果、子どもを始めとする地域住民は読書に親しむようになっており、六つの成果が、プロジェクト目標や上位目標の達成に貢献しており、本プロジェクトの有効性は、高いと評価できる。

4 3 3 効率性

本プロジェクトに投入された資機材を限られたプロジェクト関係者が有効に活用することにより、プロジェクト期間の3年間で、成果1~6までは確実に達成されている。特に、当初目標としていた1,000校への図書の新規配布と補充は、実施団体のALCとC/Pの国立図書館だけでなく、教育省及び県・市・郡の教育局を含めて、配布・モニタリング・補充の一連の作業を効果的にシステム化した結果、達成されたものであり、本プロジェクトの効率性は高いと評価できる。

本プロジェクトは、プロジェクト関係者の熱意ある取り組みにより、十分な成果を収めることができたが、ALCからは、本プロジェクトで投入されたパソコン3台では、業務を効率的に行うためには十分ではなかったという声があった。国立図書館のスタッフは、パソコンの操作ができないので、プロジェクト関連の書類作成は、すべてALCのスタッフが担当しなければならなかった。JICAへの提出書類（会計報告、スケジュール、報告書等）の作成や、県・郡の教育局への書類・調査票の作成、データ集計などを、すべてALCのスタッフが行わなければならなかったため、パソコン3台の支給では不十分であったということである。今後は、パソコンの支給台数の増加、JICAへの提出書類の簡素化、C/Pへのコンピューター研修の導入、などを検討する必要があると考えられる。

4 3 4 インパクト

(1) 正のインパクト

子どもの学習意欲の高まり

学校へ図書袋・図書箱が配布されたことにより、子どもの読書意欲だけでなく、学習意欲が全体的に高まっている。教育指導官の読書推進活動報告書では、子どもが、以前よりもよく勉強するようになったことが報告されている（表12参照）。表12の「子どもが積極的になった」には、「授業

中、よく手をあげるようになった」、「授業中、よく質問するようになった」などの態度が含まれる。

表 12：図書受領後の児童の変化

図書受領後の効果	読書推進活動報告書* (サンプル数 = 807)
ラオス語の読み書き能力が向上した	615
知識を得た	541
よく勉強する、勉強できるようになった	356
子どもが積極的になった	307
学校にくるようになった、休まなくなった	527
道徳心・判断力が向上した	348

* 読書推進活動報告書の回答は、自由回答かつ複数回答

教員の教育欲の高まり

2004 年度のモニタリング結果によると、表 13 が示すように、図書の配布後、多くの教員が、授業で図書を活用し、授業に工夫をこらすようになっている。図書配布セミナーで指導を受けたように、教員は、読み聞かせや紙芝居を取り入れているが、今後は、新たな図書の活用方法を学習できるような研修を受講してみたいとのことである。

表 13：図書受領後の教員の変化

図書受領後の効果	読書推進活動報告書* (サンプル数 = 807)
教材、授業の向上	652
知識を得る	651

*読書推進活動報告書の回答は、自由回答かつ複数回答

少数民族の子どものラオス語教育への貢献

貧困地域では就学率が低く、小学校 1 年生の 47% が留年・退学するという学校もある。少数民族の子どもにとって、学校が、ラオス語を学ぶ唯一の場である。教員は、ラオス語ができない子どもたちのために、ラオス語で読んだ後、すぐに少数民族の言葉に訳す逐次通訳方式で読み聞かせを行っている。このような読み聞かせを通じて、少数民族の子どもは、ラオス語を学ぶことができる。

読書の重要性に対する親の認識の高まり

子どもたちだけでなく、親も学校で本を借りるようになり、親も読書の重要性を理解するようになってきている地域が多い。本を学校から借りて家に持ち帰り、親に本を読み聞かせてもらっている子どもがいる一方で、借りてきた本を非識字の親に読み聞かせてあげている子どももいる。このように、読み聞かせを通じて、親子のコミュニケーションが図られ、同時に、親が学校での読書活動の重要性を認識するようになってきている。

大人の識字教育教材としての図書活用

学校に配布された図書は、非識字の親を対象とした識字教育の教材としても使用されている。特に、ラオス語の基礎の本や簡単な民話などは、ラオス語教育の適切な教材として有効利用されている。

(2) 負のインパクト

図書を配布する際に行われた研修で、図書担当教員は、図書の貸出状況・利用者数をきちんと記録するようにと指導されていた。図書担当教員は、本プロジェクトで配布・補充された図書の維持管理に努力している。しかし、学校によっては、本プロジェクト開始前に UNICEF から配布されていた図書と本プロジェクトで配布された図書を混同させてはいけないと思いきこんでいる図書担当教員がおり、UNICEF から配布された図書を教員宅に持ち帰って貸出を停止している学校もあった。そのような学校に対しては、プロジェクト関係者が訪問時に、UNICEF と ALC の図書を一緒に学校で管理し、双方からの図書を子どもに貸し出して良いことを伝えた¹⁸。

4 3 5 自立発展性

効果の持続性と実施体制の持続性の観点から本プロジェクトを評価したところ、受益者のニーズが今後も存在し、そのニーズに応える施策が準備されていることから、本プロジェクトの効果と実施体制の持続性は概ね高いと判断できる。さらに、本プロジェクト終了後も、読書推進活動の拡充を目指して、ALC がフェーズ に関する具体的なアイデアも有しており、本プロジェクトの自立発展性は、概ね高いと評価できる。しかし、教育省の予算不足により、教員への給与の支払いが滞り、また、教育指導官の出張費用を確保することができないなど、教育省が財政面での問題を抱えている。今後、このような問題に、教育省がどのように対処していくのか、あるいは、ALC と国立図書館が、そのような問題を踏まえた上で、どのように読書推進活動を継続させていくのかを入念に検討する必要がある。

(1) プロジェクト効果の持続性

子ども、教員、親、地域住民が、本プロジェクトを通じて既に読書に親しんでおり、特に、教員や親が読書の重要性を認識していることから、今後も、読書活動が授業に取り入れられ、配布図書が有効利用されるものと考えられる。また、図書箱・図書袋の有効活用のアイデアをさらに発展させて、図書室の設置を検討している小学校もある。図書の配布地域によっては、住民が、材木や労働力の提供により、図書室設置に協力することや、住民からの寄付を募って図書の購入を検討している地域もあり、本プロジェクト終了後も、地域住民が自立的に読書推進活動を継続していくものと考えられる。

(2) プロジェクト実施体制の持続性

図書の維持管理体制

本プロジェクトの中で、ALC が単独で配布対象校に働きかけてきたのではなく、国立図書館、教育省、県・市・郡の教育局とパートナーシップを築きながら本プロジェクトを実施してきた。具体的には、郡の教育指導官が、一般教科の教授指導のために学校を訪問する際、必ず読書推進活動についても指導することを教育指導官に義務付けるように働きかけた。したがっ

¹⁸ 本終了時評価調査団が現地調査で訪問したチャンパサック県トモタ小学校でも、同様の事例があった。

て、本プロジェクト終了後も、ラオス側のオーナーシップの基で、読書推進活動を継続していく体制が構築されていると言える。しかし、ラオス教育省は、予算不足の問題に直面しており、現在、教員への給与も定期的に支払えない状況に陥っている。本プロジェクトで構築された読書推進のメカニズムを今後も効果的に実施していくためには、教員や教育指導官の給与の確保を含めた財政面の強化が不可欠である。

実施団体及び関連機関の読書推進に対する意欲

ALC は、2006 年度にフェーズ Ⅰ を実施したいという意向を示している。具体的には、新規図書出版、既配布校への図書の補充、図書担当教員へのフォローアップ指導などの活動に取り組むことを検討している。

ラオス側関連機関の財政面

ラオスでは、教育省の財政難により、教員への給与が定期的に支払われず、数か月間、給与の支払いが停止していることがある。また、県・郡の教育局は、教育指導官の遠隔地への出張経費を負担することができないという問題に直面している。教員や教育指導官の読書推進活動への熱意を失わせないためにも、教育省が、財政の建て直しに向けて適切な措置をとることは、喫緊の課題である。

ラオス側の人材面

ラオスの学校では、教員が不足している。図書の配布対象校で、最低 1 名は図書担当教員が任命されている。しかし、多くの場合、図書担当教員は、図書担当の専任ではなく、クラス担任を受け持っており、図書担当とクラス担任の兼務になっている。兼任の図書担当教員には、一人で、2~3 クラス担当している教員もあり、図書の適切な維持管理を十分に行うことが難しい学校もある。現在、ラオスでは、市場経済への移行の影響を受けて、優秀な学生が教員になることを選択せず、ビジネス界に就職する傾向が著しいため、全国的に教員が不足している。今後、中学・高校・大学では、教員が生徒・学生に対して教育の重要性と魅力を伝え、教育省が教員養成学校と協力しながら、優秀な教員の育成に努力することが、重要な課題である。

なお、2007 年 9 月の新学期からは、教員養成学校で、在学中の学生に、図書の維持管理方法を指導することが、カリキュラムに追加される。したがって、今後、教員養成学校を卒業した教員には、全員、図書館司書の基本的な知識を習得する機会が与えられていることになる。

(3) フェーズ Ⅱ に関するアイデア

ALC では、プロジェクト終了後、フェーズ Ⅱ を実施することを考えている。フェーズ Ⅱ の具体的な活動内容については、今後、関係者間で検討されることになるが、現時点で、ALC は、以下のようなフェーズ Ⅱ に関するアイデアを有している。

フォローアップ研修の実施

教育指導官による読書推進活動報告書には、ALC への要望として、表 14 に示すような事項があげられている。その中でも、読書推進活動に関するフォローアップ研修を要求する意見が多い。既に、図書の維持管理方法や図書の有効な活用方法については、図書配布セミナーで指導している。しかし、教員の図書の活用方法が、まだ、読み聞かせや紙芝居などに限られているので、今後、

ALC では、図書を活用しながら、「何を」「どのように」指導していくのかということに重点を置いたフォローアップ研修を実施していきたいと考えている。具体的には、教員が、ラオス語での文章表現の仕方、民話に出てくる登場人物の心の動きの捉え方など、日本の小学校での国語の授業のような指導ができるように、フォローアップ研修のカリキュラムを工夫したいと考えている。

表 14：ALC に対する要望（サンプル数 = 807、複数回答可）

本がほしい	632
図書室がほしい	496
道具、備品がほしい	356
フォロー、指導をしてほしい	206

図書の出版

子どもは、同じ本ばかりだとすぐに飽きてしまうので、ALC では新しい図書を継続的に出版し、これまでの配布対象校に補充していきたい。本プロジェクトでは、毎年 2 タイトルずつ（計 6 タイトル）の図書を出版してきたが、フェーズ では、毎年 4～5 タイトルを目標に、新しい図書を出版したいと考えている。ラオスには、依然として子ども向けの図書は少なく、子どもが読む本も限られている。環境、衛生、科学など、民話以外にも、子どもの日常生活に役立つような内容の図書を出版していきたい。

また、ALC は、子ども向けの本だけではなく、教員に役立つような本も出版したいと考えている。例えば、教員が、授業で使えるような国語や算数のドリルなども出版することを検討している。

図書袋の配布・補充

今後は、図書箱の配布を停止し、図書のみの配布にしたいと考えている。図書箱は、箱を開くと、そのまま本棚として使用でき、図書袋は壁や窓にそのまま吊るすだけなので、いずれも便利である。しかし、今後は、本棚代わりとなる図書箱を ALC が与えてしまうのではなく、学校には図書ののみを与え、学校関係者で本棚を製作させることを考えている。図書のみの配布にすることで、学校関係者の自立心を育成することを狙いとしている。

図書の販売

これまで ALC は、図書の配布・補充を行ってきたが、今後は、無償で本を配布・補充だけでなく、本を販売することも計画している。今後は、住民の間に、本を読むという習慣だけでなく、本を購入するという習慣も育てていきたいと考えている。

4 4 草の根型案件に特に必要と思われる横断的視点からの評価

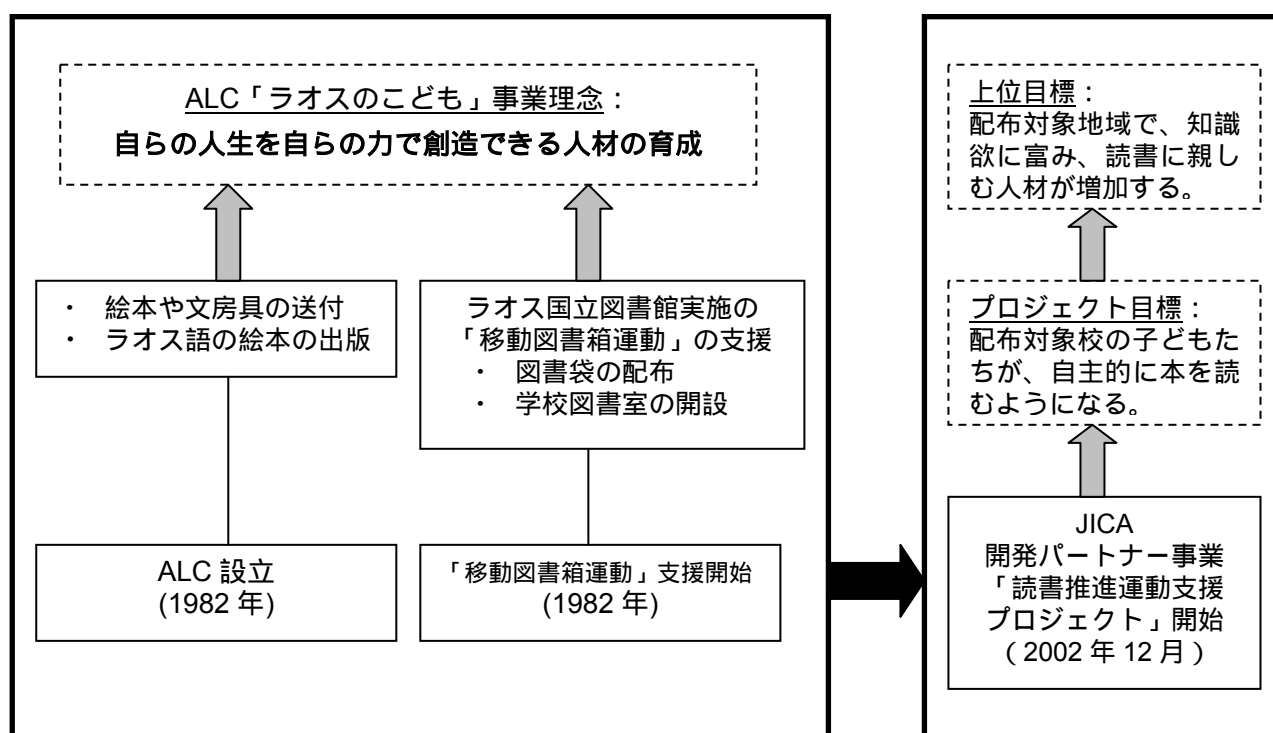
4 4 1 実施団体の事業理念との整合性

本プロジェクトの実施団体である ALC は、ラオスにおける教育環境を改善し、将来を担う子どもを育てることを目的として、1982 年に設立された。ALC は、新しい社会を自らの力で創造できる人材の育成を事業理念として掲げ、特に、子どもへの教育支援に関する活動を行っている。その活動の一環として、ALC は、設立以来、ラオスのこどもたちに文房具や絵本を送る活動を続けてきた。し

かし、1980年代後半に入ると、ALCは、単に物を送るだけの活動に疑問を抱くようになり、ラオスでの絵本作りの必要性も認識するようになった。また、1990年にラオス国立図書館が開始した「移動図書箱運動(読書推進運動)」に、1992年よりALCが協力するようになり、ラオス語図書の出版、移動図書箱運動の支援、図書袋の配布、学校図書室の開設などの事業を展開していた。

本プロジェクトは、ALCによるこれまでの読書推進支援活動の延長線上に位置付けられる。本プロジェクトでは、子どもたちが自主的に本を読むようになり(=プロジェクト目標)知識欲を増し、読書に親しむようになる(=上位目標)ことを目指している。このような方向性は、ALCの事業理念である「自らの人生を自らの力で創造できる人材の育成」と合致している。本プロジェクトでは、単なる図書の配布だけではなく、セミナーを通じて図書の維持管理に関する指導なども行われている。それまでの読書推進活動を継続・拡充する形で本プロジェクトが実施された意義は、非常に大きいと評価できる。

図2：実施団体ALCの事業理念と本プロジェクトの方向性



4 4 2 地域住民へのプロジェクトの広報活動

後述するが¹⁹、2003年度には、教育省に派遣されているJICA専門家のイニシアティブのもとで、民話コンテストが開催された。2004年11～12月には、地域住民への読書推進活動の一環として、同コンテストの入賞作品がラジオの番組で朗読された。また、読書推進のテーマソングが作曲され、2005年1月には、コンサートが開催された。同コンサートでは、ALCが出版した図書を販売したところ、参加者から好評であり、読書の楽しさが市民にも普及されつつあることが伺えた。このように、読書推進の広報活動の一環として、コンテストやコンサートを通じて読書の重要性を一般市民に伝えるこ

¹⁹ 「5-4-5 その他のJICA事業との連携」参照。

とは、ラオスでの活字文化の普及に寄与すると考えられる。

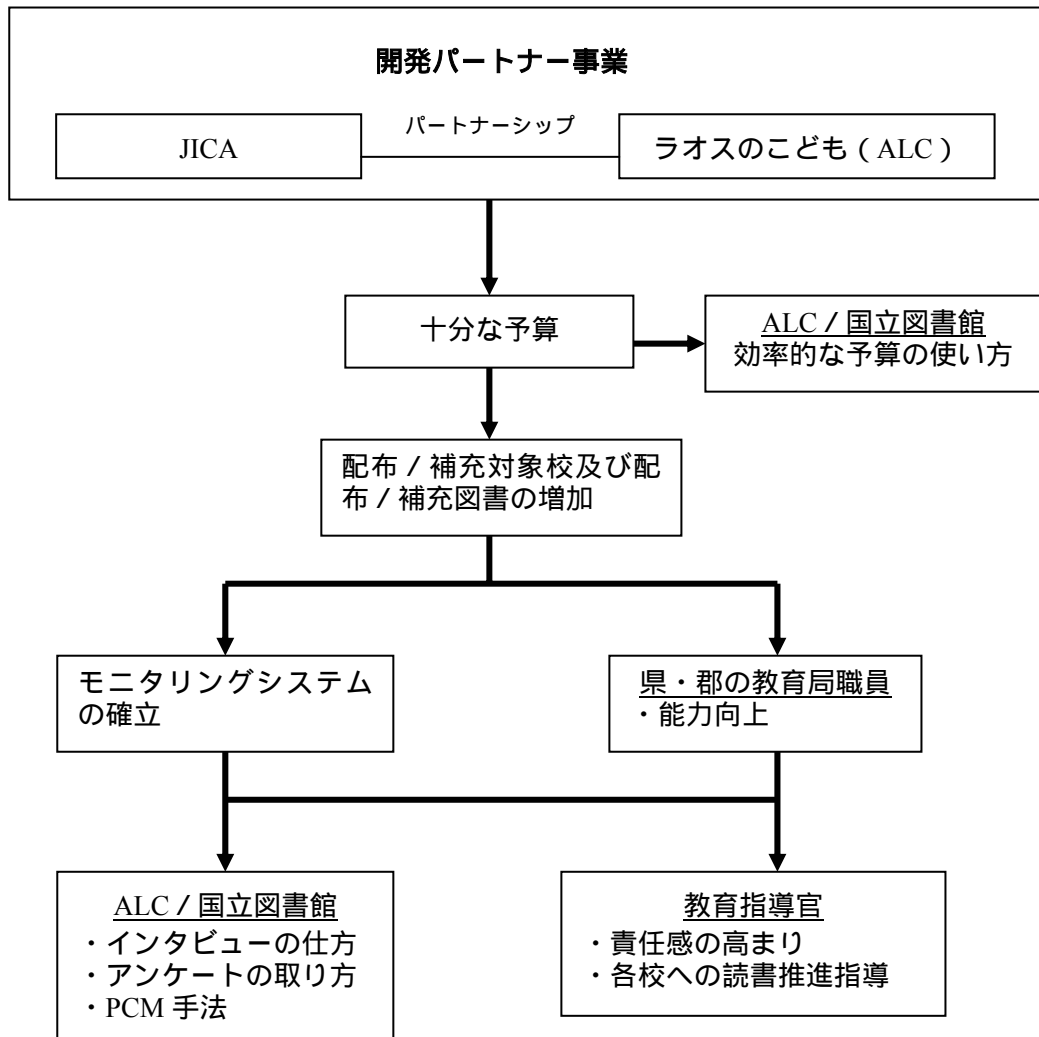
4 4 3 プロジェクト関係者のエンパワーメント

ラオス国立図書館は、1990年以來、小学校に図書を配布し、読書推進活動を続けてきた。2002年に開始された JICA 開発パートナー事業「読書推進支援プロジェクト」と、旧来の読書推進プロジェクトとの大きな違いとしては、十分な予算の確保、配布対象校及び配布図書数の増加、モニタリングシステムの構築・強化、プロジェクト実施者の学習効果、などがあげられる。

JICA 開発パートナー事業では、十分な予算が確保され、大規模配布・補充が可能になった。その結果、単に、学校へ配布・補充される図書の数が増えただけでなく、配布・補充のプロセスにおいて、プロジェクト関係者に、様々なプラスのインパクトをもたらしている（図3参照）。より多数の学校に図書を配布・補充するということは、ALC と国立図書館だけで、全対象校への配布・補充・モニタリングを十分に実施することは困難になる。その結果、県・郡の教育局の職員と、効果的に協力する必要性が生じ、県・郡の教育局職員の業務遂行能力が強化され、郡の教育指導官を通じたモニタリングシステムが確立されることになった。このようなモニタリングシステムの確立は、本プロジェクトと同様の活動の持続性を大いに強化するものである。

さらに、本プロジェクトの実施団体である ALC の職員と、そのカウンターパートである国立図書館の職員は、JICA との連携を通じて、プロジェクトの実施・管理に関して、数多くのことを学んでいる。ALC 及び国立図書館の職員は、本プロジェクトでは、旧来のプロジェクトよりも多額の予算があるがゆえに、よりいっそう資金の効果的・効率的な使い方を検討するようになっている。そのような資金に対する意識が、読書推進活動の継続性を考えることに寄与している。また、プロジェクト・サイクル・マネージメント（Project Cycle Management : PCM）というサイクルに基づいて、本プロジェクトが計画・実施・評価されたため、プロジェクト関係者は、PCM 手法に関する知識を得ることができた。特に、モニタリングの重要性を認識するようになり、インタビューの仕方やアンケートの作成などに、工夫をこらすようになった。PDM や評価 5 項目などの概念は、JICA 事業だけでなく、将来、他の国際機関から援助を受けることになった際にも、十分に活かせるということである。

図3：JICA との連携によるプロジェクト関係者のエンパワーメント



4 4 4 草の根型案件の特性

技術協力プロジェクトとは異なり、草の根型案件には、以下のような特性がある。本プロジェクトは、草の根型案件でありながら、ALC は、技術協力プロジェクトの長所も取り入れながら、プロジェクトを実施している。

(1) アプローチの仕方

技術協力プロジェクトでは、まず中央政府に働きかけ、その効果が、地方政府、団体、学校などに行き届く仕組みとなっている場合が多いが、草の根案件では、地域の団体や学校に働きかけ、その効果を持続させるために、地方政府や中央政府に働きかけていくことが一般的である（図4参照）。しかし、ALC は、1992 年以來、国立図書館が実施する読書推進運動を支援していたので、本プロジェクトの開始以前に、既に国立図書館や教育省と良好な関係を築きあげていた。

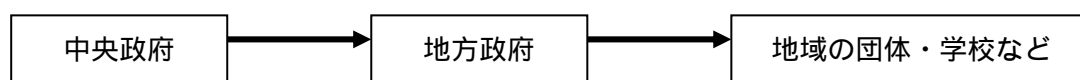
しかし、ALC は、最初から行政組織を巻き込んだ制度的なアプローチを採ることを目指していたわけではなかった。JICA との連携以前は、読書推進活動は小規模で行われていた。JICA から支援を受けることで、配布対象校が大幅に増えたことにより、県・郡の教育局との効果的な連携の必要性が強まり、その結果、図書の配布・補充やモニタリングを含めた読書推進活動を統括するメカニズムが

構築された。このようなメカニズムが、ラオス国内における読書推進活動の拡大を可能にしたと言える。

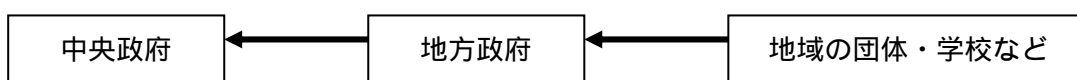
しかし、行政的なメカニズムを構築しただけでなく、ALC は、国立図書館や教育省の職員と協力して、図書の配布対象校で、きめ細かなモニタリングを行っており、モニタリング結果を、その後のプロジェクト活動に直接的に反映してきた。本プロジェクトは、正に、技術協力プロジェクトのアプローチの長所をうまく採り入れた草の根型案件と言える。

図4：技術協力プロジェクトと草の根型案件のアプローチ比較

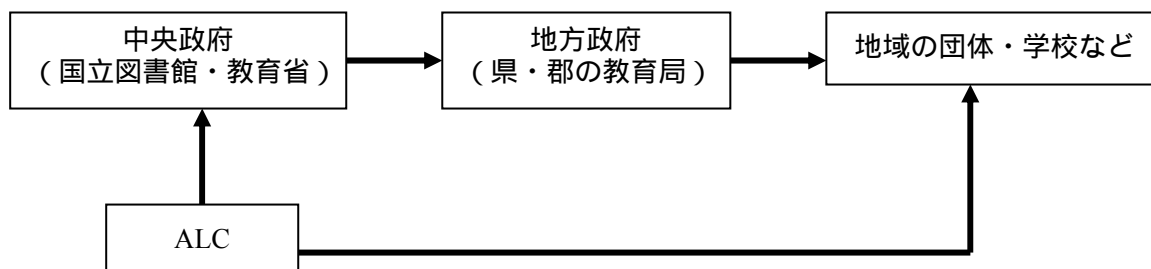
< 技術協力プロジェクト >



< 一般的草の根型案件 >



< 本プロジェクト >



(2) 実施団体の独創性

草の根型案件では、現地の事情に精通した実施団体が、これまでに蓄積してきた経験やノウハウを活かしてプロジェクトを実施するので、実施団体の独創性を十分に活かして、現場のニーズに応じたプロジェクトを実施することができる。本プロジェクトでは、ALC が既に10年以上に渡ってラオスで展開してきた読書推進支援活動の経験とノウハウが、図書の出版や実践型の図書配布セミナー、モニタリングなどにおいて、十分に活かされている。

4 4 5 その他の JICA 事業との連携

2003年3月より、教育省に教育政策アドバイザーとして派遣されている沢田誠二専門家と、在ラオス日本大使館の協力により、2003年度に「民話コンテスト」が実施された。同コンテストは、ALC、日本民際交流センター、シャンティ国際ボランティア会 (Shanti Volunteer Association : SVA) が読書

推進支援を行っている小学校を対象として実施された。ALC は、同コンテストの運営に対して側面支援を行った。同コンテストの入選作品 10 話は、民話集として 1 冊の本にまとめられ、同民話集が、本プロジェクトの配布対象校や公共図書館に配布された。このように、他の JICA 事業と連携を行うことにより、ALC が読書推進活動に関する新しいアイデアを得ることができただけでなく、その結果、本プロジェクトの受益者が、追加的なメリットを享受することができた。このようなプロジェクト効果の広がり、JICA 開発パートナー事業の目的の一つである。

今後、ALC では、環境や衛生に関する図書などを含めて、学校に配布する図書のジャンルを拡大したいと考えている。その際には、現在、ラオスで実施されている理数科分野や環境分野の技術協力プロジェクトと協力しながら図書を作成・出版することも可能である。

4 5 結論

プロジェクトで期待されていた六つの成果は、一部の遠隔地を除いて、ほぼ予定通り達成されている。配布対象校の子どもは、自主的に本を読むようになり（プロジェクト目標）、さらに、読書に対する親しみが地域住民にまで広がっている（上位目標）。したがって、プロジェクト目標は、概ね達成され、上位目標も達成の方向にあると評価できる。本プロジェクトの開始前から、一般教科に関しては、教育指導官による各学校への訪問指導が行われていたが、本プロジェクトの実施により、読書推進に関する指導も、教育指導官の指導科目として位置付けられるようになったことは、大きな成果である。しかし、教育省の予算不足により、遠隔地の学校への指導は十分に行き届いていないのが現状である。また、教員や教育指導官への給与未払い、教科書不足、教員不足など、ラオス政府は基礎教育に関する様々な問題を抱えており、それらの問題が、読書推進活動の妨げになっている。ラオス側にとっては、それらの問題にどのように対処するか、そして、ALC にとっては、それらの問題を踏まえた上で、どのように読書推進活動を継続・展開していくかが今後の課題である。

第5章 提言と教訓

以上のような調査・評価結果を踏まえ、今後のプロジェクトのあり方に関して、以下の事項が提言としてあげられる。

5 1 提言

- (1) 歴史・文化的背景の理由により、活字文化の発達が遅れてきたラオスにおいて、子どもの識字率向上や基礎教育の充実のために、今後も、読書推進活動を支援することが望まれる。
- (2) 読書推進活動を効果的に実施するためには、教育関連の JICA 専門家や技術協力プロジェクトの関係者と実施団体が、図書の作成やイベントの実施などにおいて、連携を図りながらプロジェクト活動を行うことが重要である。

< 対実施団体 >

- (1) 本プロジェクト終了までに、第3年次(2004年度)にサラワン県で行った図書の配布に対するモニタリング活動を実施する必要がある。
- (2) 子どもを始め、想定される受益者に、読書の楽しみをさらに享受してもらうためにも、様々な種類の図書があることを知らせていくことが重要である。
- (3) 図書担当教員が、読書推進活動に意欲と誇りを持ち続けられるように、優秀な担当教員の表彰制度を普及させていくことが望まれる。
- (4) 教員数が少なく、図書担当教員が、クラス担任と図書担当の複数の役割を担っている学校では、図書担当の副担当の配置や児童ボランティア(図書係り)の育成などの工夫を行うことが求められる。
- (5) 図書の活用・維持管理が適切に行われていない学校では、図書の活用・維持管理状況のモニタリングや図書の利用方法の指導などに関して、校長先生がイニシアティブをとって、教員に積極的に働きかけていくことが重要である。
- (6) 本プロジェクトの効果が途切れないように、ALC はフェーズ 1 のプロポーザルを 2005 年度のできるだけ早い時期に作成し、フェーズ 2 に向けての準備をすることが望ましい。

< 対ラオス政府 >

- (1) 教育指導官によるモニタリングが、遠隔地の配布対象校にも行き届くように、十分な予算確保に努めるか、あるいは、その代替手段を検討する必要がある。
- (2) 教員が読書活動の推進意欲を失わないように、教育省に対しては、教員に対して定期的に給与を支払うための対策を講じることが求められる。

5 2 教訓

- (1) プロジェクト関係者が、実際に現場を直接訪問するモニタリングの方法は、プロジェクト活動を円滑に実施するために効果的である。
- (2) 教育行政が十分に機能していない国で教育分野のプロジェクトを実施する際には、当該プロジェクトの中で、教育行政を強化するための活動を併行して実施する必要がある。
- (3) 草の根型案件では、現場に対して、直接働きかけるというアプローチを採りながらも、プロジ

ェクト効果を広範囲に普及させるためには、中央・地方政府を含めた指示システムのメカニズムの確立が不可欠であり、同メカニズムの確立が、プロジェクト活動の拡大・継続に大きく貢献する。

- (4) JICA NGO 連携では、実施団体が JICA のその他の事業と連携することにより、プロジェクト効果の普及を促進することができる。

付 属 資 料

- 1 . PDM0
- 2 . PDM1
- 3 . 調査要約表（英文版）
- 4 . 評価グリッド
- 5 . 面談記録
- 6 . 調査報告会出席者一覧
- 7 . ラオス教育事情資料

プロジェクト名：ラオスにおける読書推進運動支援プロジェクト		期間：2002年12月～2005年11月	
対象地域：ラオス国内の図書配付予定地域10県 (カムムン県、サワナケート県、サイソングン特別区、ウーエンチャン県、ウーエンチャン特別市、フアン県、チャンバークン県、ホーケイ県、セン県、サワナ県)	ターゲットグループ：配付対象延べ2000校の小中学校の児童生徒	作成日：2004年2月23日	
プロジェクトの要約	指標	指標データ入手手段	外部条件
上位目標			
配付対象地域で、知識欲に富み、読書に親しむ人材が増加する。	・地域住民の図書利用冊数が増加する。	・地域住民の利用者数	
プロジェクト目標			
配付対象校の子どもたちが自主的に本を読むようになる。	・配付対象校内で、在籍生徒数の延べ30%が図書を利用する。	図書利用記録、図書貸出記録	・子どもの読書に対して親が反対しない。 ・図書室が地域住民に開放される。
成果			
1 学校に図書が設置される。	1-1 7県の小中学校1000校に図書箱・袋が新規に配付される。	1-1 ASPBからの図書配付実績	・当会以外からも図書が継続して出版される。
2 学校の図書の種類が増加する。	2-1 ラオスで6タイトル、計30,000冊の図書が増加する。 2-2 出版された図書が補充対象校10県1000校に補充される。	2-1 当会出版実績 2-2 ASPBからの図書補充記録	
3 図書担当教員によって子どもたちが図書を利用できる環境が確立される。	3-1 配付対象校の70%で、図書が利用可能な状態に維持・管理される。 3-2 配付対象校の50%で、図書担当教員が読書推進活動を実施する。	3-1 登録図書リスト、利用時間表 3-2 読書推進活動報告書	
4 読み聞かせや読書活動が授業に取り入れられる。	4-1 配付対象校の30%が、授業の時間割に読書推進活動を取り入れる。	4-1 時間割	
5 学校での読書活動が継続的に実施される。	5-1 教育指導官が、管轄区域内の全配付校を、1校あたり年1回巡回指導する。	5-1 読書推進活動報告書	
6 読書環境に関するデータベースが整備される。	6-1 教育指導官が年1回、管轄区域の読書推進活動報告書を提出する。 6-2 配付対象校の読書環境に関するデータが整備される。	6-1 読書推進活動報告書 6-2 調査記録	
活動	投入		
1-1 図書箱・図書袋を製作する。	日本側	ラオス側	・配付対象校で読書指導ができる教員が確保される
1-2 図書箱・図書袋を7県の小中学校に配付する。	人材（日本人）	人材	
2-1 ラオス語の子どもの本を出版する。	プロジェクトマネージャー（現場責任者） 1名	国立図書館読書推進局	前提条件 ・情報文化省及び教育省が読書推進運動継続の意志を撤回しない。
2-2 既に図書を配付した小中学校に図書を補充する。	プロジェクトコーディネーター（統括責任者）1名	（2名はフルタイム）	
3-1 配付時に図書担当教員を対象に読書推進セミナーを開催する。	人材（ラオス人）	教育省普通教育局	
4-1 学校での指導用に読書推進ハンドブックを配付する。	業務統括担当者 1名	配付地域教育委員会 10県	
4-2 セミナー時に読書推進ハンドブックを教材として使用する。	業務アシスタント 4名（1名はフルタイム） 専門家アドバイザー 1名	施設	
5-1 教育指導官を対象に読書推進セミナーを行う。	機材	配付セミナー会場 学校図書室用スペース	
5-2 教育指導官が配付対象校の読書推進活動を指導する。	図書箱・図書袋 1000セット		
6-1 配付対象校でのモニタリング・読書環境調査の結果を集計・分析する。	図書 約32万冊 読書推進ハンドブック 5000部		
	輸送・移動用車両 1台		
	パーソナルコンピューター 2台		
	プリンター、スキャナー 各1台		
	テレビモニター&ビデオデッキ 1台		
	カセットレコーダー 1台		
*上記ターゲットグループの配付対象延べ2000校以外に、国立図書館、子ども文化センター等にも図書を配付する。			

2 . PDM1

Project title : Support of reading promotion activities in Laos		Project period : Dec. 2002 - Dec. 2005	
Project site: 10 province where books will be distributed in Laos (KM, SVK, SSB, VT, VTM, HP, CP, BK, SK, SLV)		Target group : Pupils at 2000 primary and secondary Schools as a total number where books will be distributed (to be called as Schools)	
		Date : Nov. 25, 2002	
Narrative Summary		Objectively Verifiable Indicators	
Means of Verification		Important Assumptions	
Overall goal			
*Human resources that are active to learn and love reading will be developed at project site.	*Number of books utilized by local residents will be increased.	*Number of local residents who utilize books.	
Project Purpose			
*Pupils at Schools come to read books voluntarily .	*Number of books lent at Schools will be increased by 30% in the 1st year of distribution and by 10% in the next year.	*Record of book lending	*Parents do not oppose children's reading books. *Reading room is open to local residents.
Outputs			
1 Books are available at Schools.	1-1 BCs and BBs are distributed at 1000 Ps and Ss in 7 provinces.	1-1 Distribution result from ASPB	*Books are continuously published by other publishers as well as ASPB
2 Variety of book at Schools are increased.	2-1 30,000 books with 6 titles are increased in Laos. 2-2 Books are supplemented at 1000 Schools in 7 provinces.	2-1 Publishing result by ASPB 2-2 Supplement result by ASPB	
3 Environment of reading books for pupils are established by teachers responsible for reading promotion	3-1 Books are properly maintained by Teachers. 3-2 Teachers implement story telling and reading books.	3-1 List of books, record of repair 3-2 Reading promotion report	
4 Story telling and reading activities are adopted in curriculum.	4-1 1 class for reading in a week will be included in curriculum at 20% of Schools.	4-1 Curriculum at Schools	
5 Reading activities at Schools are continuously implemented.	5-1 Supervisors visit all Schools at the area in charge one a year.	5-1 Reading promotion report	
6 Database for reading environment is established.	6-1 Supervisors submit annual report on reading promotion in the area in charge. 6-2 Research will be conducted by hearing voices of teachers and pupils at Schools.	6-1 Reading promotion report 6-2 Record of hearing	
Activities		Inputs	
1-1 Make BC and BB.	Japan	Laos	*Teachers who can implement reading promotion is always available at Schools.
1-2 Distribute BC and BB to Ps and Ss in 7 provinces.	Japanese	Lao	
1-3 Supplement Books at Schools where books are already distributed.	Project manager (front line administration) 1 person Project coordinator (overall administration) 1	Reading promotion section at National Library (2 as full-time)	
2-1 Publish books written by Lao writers.	Lao	MOE, ordinary education section Education committee at project site at 10 provinces	Pre-assumptions
3-1 Hold reading promotion seminar for teachers responsible for reading promotion at the time of distribution.	Chief project coordinator 1 Assistant 4(1as full-time)	Facility	*MoIC and MoE do not withdraw from reading promotion movement
4-1 Publish reading promotion handbook to distribute to Schools.	Expert advisor 1	Reading promotion seminar venue Space for reading room at School	
4-2 Distribute reading promotion handbooks at the seminar.	Materials BC, BB 1000 sets		
5-1 Hold reading promotion seminar for supervisors.	Books Approx. 320 thousand		
5-2 Supervisor instructs reading promotion activities at Schools.	Reading promotion handbook 5000 vols. Car 1 unit		
6-1 Conduct monitoring and evaluation.	PC 2 units Printer, Scanner 1unit each TV monitor and VTR 1unit each Cassette recorder 1unit		
*Books will be distributed to National Library and CCCs, etc. in addition to 2000 schools as a total number described as target group.			

3 . 調査要約表 (英文版)

Summary of Final Evaluation Results

1. Outline of the Project		
Country: Lao DPR		Project title: Reading Promotion Project
Issue/Sector: Education (Other)		Cooperation scheme: JICA Partnership Program
Division in charge: Human Development Department		Total cost: 15,926,400 yen (at contract)
Period of Cooperation	2002.12 ~ 2005.12	Partner Country's Implementing Organization: National Library, the Ministry of Education
		Supporting Organization in Japan: Action with Lao Children
<p>1-1 Background of the Project</p> <p>Lao People's Democratic Republic (hereinafter, Lao PDR) has faced many kinds of problems regarding public education due to the influence of the education policy in the colonization period, the confusion caused by Vietnam War, and the Asian economic crisis. Reading activities are important for children to learn the Lao language and to develop imagination and creativity. Unfortunately, however, in Lao PDR, books for children in particular have lacked, and libraries at school have not been prepared, which impedes the literacy development of children and the spread of basic education.</p> <p>In order to improve such a situation, the Lao National Library had conducted "Reading Promotion Project" since 1990 with a purpose to introduce books in public education nationwide. The Action with Lao Children (hereinafter, ALC), which is the implementing organization of the Project, had supported the Reading Promotion Project in collaboration with the National Library in publishing books for children, distributing book bags and book cases, and conducting reading promotion seminars. Through these activities, ALC had accumulated a variety of know-how with regard to reading promotion activities. In December, 2002, with the know-how, ALC started the Project in the scheme of JICA-NGO partnership to expand reading promotion activities in Lao PDR with a view to increase opportunities for children to enjoy reading.</p> <p>1-2 Project Overview</p> <p>(1) Overall Goal Human resources that are active to learn and love reading will be developed at project site.</p> <p>(2) Project Purpose Pupils at schools come to read books voluntarily.</p> <p>(3) Outputs</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Books are available at schools. 2. Variety of book at schools is increased. 3. Environment of reading books for pupils is established by teachers responsible for reading 		

promotion.

4. Story telling and reading activities are adopted in curriculum.
5. Reading activities at schools are continuously implemented.
6. Database for reading environment is established.

(4) Inputs (at evaluation)

1. Japanese Side

1) Human Resources

<Japanese side>

Project Manager (1), Project Coordinator (1)

<Lao side>

Chief Project Manager (1), Project Assistants (4), Advisor (1)

2) Materials and Equipment

Computers (3), Printer (1), Scanner (1), Copy machine (1), Fax machine (1), Camera (1), TV (1), Video deck (1), Cassette recorder (1), Book cases/bags (1,000 sets), Books (approximately 320,000), Reading promotion handbooks (approximately 5,000)

2. Lao Side

1) Human Resources

Staff of the Reading Promotion Department, National Library (2)

2) Facilities

Venues for seminars

2. Evaluation Team

Members of Evaluation Team	Mr. Jun SAKUMA (Team Leader) Team Director, Basic Education Team I, Group I (Basic Education), Human Development Department, JICA	
	Ms. Yoshiko SOGAWA (Evaluation Planning) Basic Education Team I, Group I (Basic Education), Human Development Department, JICA	
	Ms. Yasuko OSE (Evaluation Analysis) Social Development Department, Global Link Management	
Period of Evaluation	May 8, 2005 ~ May 19, 2005	Type of Evaluation: Final Evaluation

3. Results of Evaluation

3-1 Summary of Actual Achievement

(1) Achievement of the Project Purpose

At more than 80% of schools where monitoring was conducted, book bags/cases were utilized and

maintained appropriately. At most of the schools, reading activities were adopted, and pupils came to be interested in reading and positive about learning. Judging from these situations, it was evaluated that the Project Purpose, “Pupils at schools come to read books voluntarily,” had been achieved. Furthermore, books which were distributed in the Project were lent to the parents and people living in the community, which will contribute to the achievement of the Overall Goal, “Human resources that are active to learn and love reading will be developed at project site.” However, at schools in the remote areas, after the distribution of book bags/cases, due to the lack of the budget of the Ministry of Education, district supervisors of education could not conduct monitoring in all the schools. At many of the schools in the remote areas, the utilization and maintenance of the books have not been monitored. In order to make it possible for the district supervisors of education to monitor the reading promotion activities at schools in the remote areas, it is significant for the Ministry of Education to reconsider the budget allocation.

(2) Achievement of the Outputs

1) Output 1: Books are available at schools.

In the selection of the target schools, schools which were enthusiastic about reading promotion or had never been received books before were prioritized in the Project. Through the Project, book bags/cases had been distributed to 1,000 schools in 7 provinces, and it was confirmed that those book bags/cases were effectively utilized at most of the schools.

2) Output 2: Variety of book at schools is increased.

It was confirmed that in order to increase books for children 6 titles of books (2 titles/year for 3 years) had been published and supplemented to 1,000 schools in 10 provinces, and that those books were being read by pupils. ALC is determined to continue to publish books for children with a view to strengthen the sustainability of children’s interest in reading.

3) Output 3: Environment of reading books for pupils are established by teachers responsible for reading promotion.

It was confirmed that at many of the target schools, books were maintained appropriately and the reading environment was well maintained by teachers responsible for reading promotion. The achievement of Output 3 was due to the effective utilization of the know-how on the maintenance of books that teachers in charge of reading promotion learned at the seminars, and due to monitoring activities conducted by district education supervisors. In some target areas, the system to award outstanding teachers in charge of reading promotion is being discussed. Thus, some schools or provincial/district education committees are trying to do something to motivate the teachers to be more positive about reading promotion.

4) Output 4: Story telling and reading activities are adopted in curriculum.

At most of the target schools, story telling and reading activities are adopted in class. Some teachers

have become creative about reading activities in class, by letting the pupils write how they feel after reading or summarize the stories, and giving quizzes. Since folk tales are very popular among the pupils, teachers utilize some of the folk tales as the textbooks of the Lao language in class. Such an effective utilization of the books is a significant output produced by the monitoring by the district supervisors of education. However, at some of the schools in the remote areas, books distributed in the Project were not utilized effectively because district supervisors of education could not monitor sufficiently in terms of frequency. It is an important issue to be considered that district supervisors of education conduct monitoring regularly to the schools in the remote areas.

5) Reading activities at Schools are continuously implemented.

At schools in the relatively urban areas, reading activities have been practiced effectively since district supervisors of education have conducted monitoring. On the other hand, at schools in the remote areas, the books are not effectively utilized or appropriately maintained since monitoring activities have not regularly been conducted by district supervisors of education. To strengthen monitoring activities, especially to the remote areas, the Ministry of Education needs to address the budgetary issue in order to allocate the travel allowance for the district supervisors of education.

6) Output 6: Database for reading environment is established.

Baseline survey was conducted to schools before books were distributed; monitoring survey was conducted to schools before books were supplemented. In the Project, books were supplemented, the next year, to the schools where books had been distributed. Therefore, it was possible for the Project to conduct monitoring the next year when they supplemented additional books. Since district supervisors of education could not visit all of the schools in the remote areas for monitoring, questionnaires to the schools had not been collected yet. However, based on the result of the baseline and monitoring survey which have been conducted, the database on reading promotion activities has been established, which is an appreciative output of the Project. The database is expected to be effectively utilized for the distribution and supplement of books in the future.

(3) Process of the Implementation of the Project

From planning to implementation of the Project, collaboration has been well maintained among ALC, National Library, and the Ministry of Education, and the project activities, such as the selection of the target schools, the distribution and supplement of book bags/cases, the organization of the seminars, and monitoring, have been conducted effectively.

In the book distribution seminars, local resources were utilized as much as possible to make it possible for each school to maintain books appropriately and to utilize the books effectively in an independent and sustainable manner.

With the initiative of the JICA Expert (advisor on educational policy), "Folk Tale Contest" was held in 2003. In the contest, schools in some of the districts that ALC and other NGOs had supported were targeted. ALC provided assistance for the contest, and was able to realize effective collaboration

with the JICA Expert and other NGOs.

3-2 Summary of Evaluation Results

(1) Relevance

Being evaluated from the perspectives of 1) consistency with the policy of the Lao government; 2) consistency with the policy of the Japanese government; 3) appropriateness of the selection of the target group; 4) consistency with the needs of the local people; and 5) consistency with the organizational philosophy of ALC, the relevance of the Project was judged high because of the following reasons.

With regard to 1) and 5), the Lao government has considered the expansion of basic education as an important issue. The National Library started “Mobile Book Case Movement (Reading Promotion Project)” in 1990. Since 1992, ALC had supported the movement. To strengthen the movement, the Project was started in 2002. Therefore, it can be judged that the direction that the Project pursues is consistent with the educational policy of the Lao government and the organizational philosophy of ALC. Regarding 2), the Japanese government prioritizes the expansion of basic education, in particular, in the field of BHN (basic human needs), which also consistent with the direction of the Project pursues. As for 3), in the selection of the target schools, out of the target provinces/cities, schools which lacked textbooks or had never received books from ALC or the National Library before were prioritized. This way of selection can be judged appropriate in terms of not only the sustainability of reading promotion but also the reduction of regional disparities in basic education. Regarding 4), books which were distributed by the Project are lent not only to the pupils but also to their parent and people in the community, and they are happy to be given opportunities to enjoy reading. In particular, folk tales are popular among not only children but also adults. This shows that the books distributed by the Project reflect the needs of local people.

(2) Effectiveness

The aforementioned 6 Outputs have been achieved almost as planned, through the activities, such as the distribution/supplement of book bags/cases, the appropriate maintenance of books by teachers in charge of books, the instruction on reading promotion by the district supervisors of education, and the monitoring by ALC, the National Library, and the Ministry of Education (excluding part of the remote areas). As a result, not only the pupils but also people in the community have come to enjoy reading, which means that the 6 Outputs have contributed to the achievement of the Project Purpose and the Overall Goal. Therefore, the effectiveness of the Project can be evaluated as high.

(3) Efficiency

Since by effectively utilizing the limited amount of materials and equipment provided in the Project, the 6 Outputs have almost been achieved (excluding part of the remote areas) during the project period (3 years), the efficiency of the Project can be evaluated as high. Outputs 1 and 2, in particular, the distribution of books to 1,000 schools and the supplement of books to 1,000 schools, could be achieved by the effective implementation of a series' of activities including the selection of the target schools,

distribution, monitoring, and supplement by ALC, the National Library, and the Ministry of Education.

(4) Impact

The positive impacts produced by the Project are 1) pupils' positive attitude toward learning has been fostered; 2) teachers' enthusiasm about education has been enhanced; 3) reading promotion activities have contributed to the education of the Lao language for the ethnic minorities; 4) parents' have become aware of the significance of reading; and 5) books distributed/supplemented in the Project have been utilized as educational materials for adult literacy education.

As for 1), pupils' positive attitude toward learning can be observed in higher attendance rate to school, higher reading and writing ability of the Lao language, and higher interest in reading. With regard to 2), teachers in schools where books were provided began to actively utilize the books as educational materials in class and become creative about class activities. Regarding 3), the books provided in the Project have been used as alternative textbooks at schools, which are lacking textbooks, in the remote areas, where many ethnic minorities live. This has contributed to improving the educational situation of the Lao language for children of the ethnic minorities. With regard to 4), not only children but also their parents enjoy reading by borrowing books at school. In addition, while some children borrow books at school, bring them home, and ask their parents to read aloud for the children, some children read the books aloud at home for their parents who are illiterate. Thus, through reading or story telling, communication between parents and children has been promoted, and parents have become aware of the significance of reading activities at school. Regarding 5), in some areas, at primary schools or community centers, adult literacy educational programs are provided. The basic Lao books or simple and short folk tales, which were provided by the Project, are effectively utilized as appropriate educational materials for the Lao language education.

As the negative impact of the Project, schools which stopped lending the books provided by other donors were found. Since at the book distribution seminars, the participants, who were teachers in charge of reading promotion, were trained to record the number of the books used and lent, some of them, though the number was small, misunderstood that they should not mix the books provided by other donors with those by ALC, and discontinued lending the books by other donors. To the schools where lending books by other donors had been discontinued, when the project members visited the schools, they instructed the teachers responsible for reading promotion to keep all the books together and to lend the books.

(5) Sustainability

Being evaluated from the perspectives of 1) continuity of the effect of the Project, and 2) continuity of the implementation system of the Project, the sustainability of the Project can be evaluated as high because the needs of the beneficiaries regarding reading promotion will continue to exist, and the system to respond to the needs has been established during the Project period. Furthermore, ALC is planning to

start the Phase II of the Project and already have some specific ideas about the Phase II, with a view to expand reading promotion activities. In that sense, the sustainability of the Project can be evaluated as high. However, in order to ensure the sustainability of the reading promotion activities, which are expected to be conducted independently by the Lao side, it is essential for the Ministry of Education to allocate the sufficient budget to reading promotion.

As for 1), judging from the fact that pupils, their parent, teachers, and local people have already come to enjoy reading through the Project activities, and that teachers, in particular, has recognized the significance of reading activities, it can be expected that reading activities will continue to be actively adopted in class and the books will continue to be effectively utilized. Some of the primary schools are planning to set up a library, developing the idea of the effective utilization of book bags/cases. In some of the areas, people in the community are willing to cooperate for setting up a library by providing timber or labor. In other areas, they are asking donations of the community people and planning to purchase books with the donations. Judging from these positive attitudes toward reading promotion activities, even after the Project is terminated, it can be expected that they will continue the reading promotion activities voluntarily. Moreover, ALC has already shown their will to implement the Phase II of the Project in the fiscal year 2006. ALC is planning to specifically work on publishing books for children, supplementing books to the schools which they distributed books in Phase I, and conducting follow-up activities.

With regard to 2), in the Project, ALC has worked on the target school, not independently by themselves but collaboratively with the National Library, the Ministry of Education, and the Education Committee of the target provinces, cities, and districts. For instance, it was decided as mandatory for the district supervisors of education when they visited the target schools to instruct not only general school activities but also reading promotion activities. This shows that the system has been established to continue reading promotion activities with the ownership of the Lao side. However, the Ministry of Education has faced a budgetary problem, and even cannot pay salaries to teachers regularly. In order to continue the reading promotion activities based on the mechanism or system that has been established by the Project, the Ministry of Education will be required to address the budgetary issues including a regular payment of salaries to teachers and district supervisors of education.

3-3 Factors that Promoted the Realization of Effects

(1) Factors concerning Planning

ALC, the National Library, and the Ministry of Education trained teachers responsible for reading promotion in the book distribution seminars regarding the effective maintenance and utilization methods, such as lending the books and recording them properly, repairing damaged books, story-telling, and playing games with the books. These methods were appreciated by the teachers who attended the seminars. In the reading promotion activities at school, the teachers are willing to adopt the methods that they learned in the seminars. Consequently, the books are well maintained, and reading promotion activities have stirred the pupils' interest in reading. Therefore, the seminars that were held at the time of distribution can be highly appreciated.

(2) Factors concerning Implementation Process

In the Project, books were supplemented the next year books had been distributed. At the time of supplement, monitoring was conducted about the maintenance and utilization of the books which had distributed the previous year. Supplementing books can prevent pupils from being bored with the same books and contribute to making them become more interested in reading. Furthermore, by conducting monitoring, those who visit the schools can instruct the teachers in charge of reading promotion how to repair damaged books or how to be creative in reading promotion activities in class. In other words, monitoring can contribute to the improvement of the reading environment for children.

3-4 Factors that Impeded the Realization of Effects

(1) Factors concerning Planning

Nothing in particular.

(2) Factors concerning Implementation Process

The book bags/cases provided in the Project have been maintained appropriately. However, at some of the schools, after the teacher in charge of reading promotion was transferred, no one has been assigned to the successor. Out of the schools which were monitored, at 10-20% of the schools, the books were not maintained appropriately.

District supervisors of education are obliged to instruct how to practice reading promotion activities in addition to the teaching methods of general school activities when they visit schools. However, since at schools in the remote areas, it is impossible for them to go and return on the same day, the additional budget is required for transportation, accommodations, and allowance. However, due to the lack of the budget, the Ministry of Education and the Education Section of the provinces and districts cannot allocate sufficient money for the costs. Consequently, it is difficult for the district supervisors to visit schools in the remote areas, where at some of the schools, the utilization and maintenance situations of the books are left unknown. In order to make it possible for them to visit those schools, the Ministry of Education and other related organizations need to take measured against the lack of budget in the field of education.

3-5 Conclusion

Excluding in the part of remote areas, the expected 6 Outputs have almost been achieved as planned. Pupils at the target schools have come to read voluntarily (=Project Purpose), and the custom of enjoy reading has spread in the community (=Overall Goal). Therefore, it can be evaluated that the Project has almost achieved the Project Purpose and is now in the direction toward the achievement of the Overall Goal. Before the Project was started, district supervisors of education used to visit the schools and instruct on general class activities. In the framework of the Project, it has been made obligatory that district supervisors of education instruct on reading promotion activities when they visit the schools, which is a significant output of the Project. However, because of the lack of the budget of the Ministry

of Education, district supervisors of education have not monitored schools in the remote areas. Moreover, the Ministry of Education has faced other problems related to basic education, such as unpaid salaries to teachers and supervisors of education, and the lack of textbooks and teachers. These problems have deterred reading promotion activities. It is an important issue for the Lao side to examine how to address these problems; ALC is expected to expand reading promotion activities, considering the problems.

3-6 Recommendations

Due to the historical and cultural background, Lao PDR has been behind in the development of read-and-writing culture. It is necessary to continue to support reading promotion activities to raise the Lao children's literacy rate and to reinforce basic education.

In order to effectively implement reading promotion activities, it is important for the implementing agency to collaborate with other JICA stakeholders, such as long-term experts in Technical Cooperation Projects or advisors to the education-related agency, in preparing books and organizing education-related events.

<To the Project>

By the termination of the Project, monitoring should be conducted on the distribution and supplement of books in Salavan province, which had been implemented in the third year of the Project (2004).

In order to let the prospective beneficiaries, including children, enjoy reading, it is important for the Project to let them be exposed to as many kinds of books as possible.

The award system for excellent teachers in charge of reading promotion needs to be introduced and spread in order for the teachers to continue to be active about reading promotion and be proud of the activities.

At schools where the number of teachers is small and the teacher in charge of reading promotion is responsible for multiple roles with a homeroom teacher, it is preferable to assign an assistant teacher in charge of reading promotion or a few volunteers of the pupils.

At schools where books are not effectively utilized or appropriately utilized, it is necessary for the principals to actively work on the teachers to teach how to conduct monitoring and how to utilize the books for children.

ALC should prepare a proposal for Phase II as early as possible in the fiscal year 2005 not to discontinue the positive effect of the Project.

<To the Lao Government>

The Ministry of Education needs to make efforts in the budget reform to allocate enough money for the district supervisors of education to be able to visit schools in the remote areas, or to examine alternative approaches with which will enable them to visit schools in the remote areas.

Appropriate measures need to be taken for the Ministry of Education to regularly pay salaries to the

teacher in order to prevent them from losing their interest in reading promotion activities.

3-7 Lessons Learned

It is very important that the project members visit project sites and conduct hands-on monitoring to implement a project effectively and efficiently.

In the countries where the educational policy or system has not properly been functioning, a project in the field of education needs to be implemented along with the activities to strengthen the education policy or system of the countries.

In a grassroots project, in general, an approach is taken to directly work on the project sites. However, in order to effectively spread the project effect to as large an area as possible, it is essential for the grassroots project to establish a top-down mechanism including the central and local governments. Such a mechanism can contribute in large to the expansion of the project activities and the sustainability of the project effect.

In the JICA-NGO partnership projects, an implementing organization can promote to spread the project effect by collaborating with aid activities in the other schemes of JICA.

ラオスにおける読書推進運動支援プロジェクト 終了時評価 評価グリッド

4.1 実績の検証

	調査項目	必要な情報・データ	情報源	調査方法
実績	上位目標の達成度（見込み）	・ 対象地域住民の図書利用冊数 （プロジェクト開始時～現在までの推移）	・ 図書利用記録／貸出記録 ・ プロジェクト関係者	・ 資料レビュー ・ インタビュー
	プロジェクト目標の達成度（見込み）	・ 配布対象校内での図書利用者数	・ 図書利用記録／貸出記録 ・ 配布対象校図書担当教員 ・ プロジェクト関係者	・ 資料レビュー ・ インタビュー
	成果1の達成度	1-1 7 県の小中学校 1,000 校への新規図書箱・袋の配布数	・ ALC からの図書配布実績 ・ プロジェクト関係者	・ 資料レビュー ・ インタビュー
	成果2の達成度	2-1 対象地域内での図書の増加数 2-2 補充対象校への図書の配布数	・ ALC 出版実績 ・ ALC からの図書補充記録 ・ プロジェクト関係者	・ 資料レビュー ・ インタビュー
	成果3の達成度	3-1 配布対象校での図書利用の維持管理状況 3-2 配布対象校での図書担当教員による読書推進活動の実施状況	・ 読書推進活動報告書 ・ プロジェクト関係者 ・ 配布対象校図書担当教員 ・ 現場視察	・ 資料レビュー ・ インタビュー ・ 視察
	成果4の達成度	4-1 配布対象校での読書推進活動の取り入れ状況	・ 配布対象校の時間割 ・ プロジェクト関係者	・ 資料レビュー ・ インタビュー
	成果5の達成度	5-1 教育指導官による配布校への巡回指導状況	・ 読書推進活動報告書 ・ インタビュー	・ 資料レビュー ・ インタビュー
	成果6の達成度	6-1 教育指導官による読書推進活動報告書の提出状況 6-2 配布対象校の読書環境に関するデータ整備状況	・ 読書推進活動報告書 ・ 調査記録 ・ プロジェクト関係者	・ 資料レビュー ・ インタビュー
実績	投入の実績	・ <日本側> プロジェクト関係者の人数・役割、供与機材の量、現地業務費等 ・ <ラオス側> カウンターパートの人数、提供施設等	・ プロジェクト作成の投入表 ・ プロジェクト関係者	・ 資料レビュー ・ インタビュー

4 2 実施プロセスの検証

実施プロセス	活動の進捗状況	PDM、PO に沿った活動の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> 活動実績表 プロジェクト関係者 	<ul style="list-style-type: none"> 資料レビュー インタビュー
	モニタリングの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> モニタリングの仕組み PDM、PO の修正事項 外部条件への対応状況 	<ul style="list-style-type: none"> 活動実績表、PDM、PO 等の各種資料 プロジェクト関係者 	<ul style="list-style-type: none"> 資料レビュー インタビュー
	日本側プロジェクト関係者とラオス側プロジェクト関係者との関係	<ul style="list-style-type: none"> 相互コミュニケーションの状況 問題が生じた際の解決方法 ミーティングの開催状況 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト報告書 プロジェクト関係者 	<ul style="list-style-type: none"> 資料レビュー インタビュー
	相手国実施機関のオーナーシップ	<ul style="list-style-type: none"> 実施機関責任者(ラオス国立図書館長)の意欲、参加度合い カウンターパート配置の適正度 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト報告書 プロジェクト関係者 	<ul style="list-style-type: none"> インタビュー
	草の根での実施機関のオーナーシップ	<ul style="list-style-type: none"> 図書配布対象校の校長先生から、本プロジェクトへの理解/協力は得られたか。 図書配布対象校の先生や親から、本プロジェクトへの理解/協力は得られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト関係者 配布対象校の校長先生 配布対象校の先生/親 	<ul style="list-style-type: none"> インタビュー
	他の JICA プロジェクト(業務)との連携	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトの実施過程において、初等・中等教育アドバイザー(長期専門家)や「ラオス理数科教員養成プロジェクト」の専門家と何らかの連携・協力があつたか。 他の草の根型案件「移動図書館プロジェクト」から、何らかの連携・影響があつたか。 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト報告書 プロジェクト関係者 	<ul style="list-style-type: none"> 資料レビュー インタビュー

4 3 評価5項目による評価

4 3 1 妥当性

	調査項目	必要な情報・データ	情報源	調査方法
妥当性	上位目標及びプロジェクト目標とラオス政府の開発政策との整合性	・ 読書推進という活動内容のプロジェクトは、ラオス政府の開発政策の優先事項・重要課題に含まれるか。	・ プロジェクト報告書 ・ その他、関連資料 ・ プロジェクト関係者	・ 資料レビュー ・ インタビュー
		・ ラオス国立図書館、教育省、情報文化省は、小中学校への読書推進をどのように捉えているか。	・ ラオス国立図書館、教育省、情報文化省に関する資料 ・ ラオス国立図書館、教育省、情報文化省関係者	・ 資料レビュー ・ インタビュー
	上位目標及びプロジェクト目標と日本政府の援助政策との整合性	小中学校への読書推進支援は、日本政府の対ラオス援助の重点分野となっているか。	・ ODA 白書 ・ JICA 国別援助戦略	資料レビュー
	ターゲットグループの適正度	ターゲットグループ（配布対象校）の選定方法・数は、適正であったか。	・ プロジェクト報告書 ・ プロジェクト関係者	・ 資料レビュー ・ インタビュー
	対象地域選定の適正度	対象県の選定・数は適切であったか。	・ プロジェクト報告書 ・ プロジェクト関係者	・ 資料レビュー ・ インタビュー
	地域住民のニーズの反映	プロジェクトの内容は、地域住民のニーズを反映したものになっていたか。	・ プロジェクト報告書 ・ プロジェクト関係者	・ 資料レビュー ・ インタビュー
実施団体の事業理念との整合性	読書推進支援という活動内容のプロジェクトは、実施団体の事業理念に合致しているか。	・ プロジェクト報告書	・ 資料レビュー	

4 3 2 有効性

有効性	プロジェクト目標の達成度	配布対象校の子どもたちが、どの程度、図書を利用しているか。	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト報告書 配布対象校図書担当教員 	<ul style="list-style-type: none"> 資料レビュー インタビュー
	各成果のプロジェクト目標への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> 各成果達成のプロセスにおいて、問題点はなかったか。また、問題点があった場合は、どのように対処したか。 配布対象校の図書担当教員は、特に、どのようなことに配慮して、読書推進活動を実施してきたか。 実施団体の経験、知恵、ノウハウが、成果達成に向けて、どのように生かされてきたか。 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト報告書 プロジェクト関係者 配布対象校図書担当教員 	<ul style="list-style-type: none"> 資料レビュー インタビュー
	外部条件の確認	ALC 以外から、どの程度、図書が継続的に出版されているか。	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト報告書 プロジェクト関係者 	<ul style="list-style-type: none"> 資料レビュー インタビュー

4 3 3 効率性

効 率 性	日本側からのプロジェクト担当者的人数、役割、派遣期間等の適正度	同左	<ul style="list-style-type: none"> ・ インプット表 ・ 日本側関係者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料レビュー ・ インタビュー
	カウンターパートの人数、役割等の適正度	同左	<ul style="list-style-type: none"> ・ インプット表 ・ ラオス側関係者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料レビュー ・ インタビュー
	カウンターパートの本プロジェクト取り組みへの意欲（協力度合い）	同左	<ul style="list-style-type: none"> ・ インプット表 ・ プロジェクト関係者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料レビュー ・ インタビュー
	管轄区域内の教育指導官の人数、配置の適正度	同左	<ul style="list-style-type: none"> ・ インプット表 ・ プロジェクト関係者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料レビュー ・ インタビュー
	配布対象校の図書担当教員の人数、配置の適正度	同左	<ul style="list-style-type: none"> ・ インプット表 ・ プロジェクト関係者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料レビュー ・ インタビュー
	供与機材の量、質、供与タイミングの適正度	同左	<ul style="list-style-type: none"> ・ インプット表 ・ プロジェクト関係者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料レビュー ・ インタビュー
	投入（量・質）面での他の類似案件（草の根型案件）との比較	同左	<ul style="list-style-type: none"> ・ インプット表 ・ プロジェクト提供資料 ・ プロジェクト関係者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料レビュー ・ インタビュー

4 3 4 インパクト

イ ン パ ク ト	上位目標に関するインパクト	地域住民が図書を利用することによって、地域住民はどのようなプラスの影響を感じているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクト報告書 ・ その他、関連資料 ・ プロジェクト関係者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料レビュー ・ インタビュー
	正のインパクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上位目標やプロジェクト目標以外に、本プロジェクトの計画時には予期していなかったプラスのインパクトが、何か生じているか。 ・ 本プロジェクトを実施することにより、子どもの学習態度 / 意欲、先生の教育態度 / 熱意などに、プラスの変化が生じているか。 ・ ターゲットグループ以外への波及効果は期待できるか（例：配布対象校以外、親、地域住民等）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクト報告書 ・ その他、関連資料 ・ プロジェクト関係者 ・ 配布対象校の先生 ・ 図書を利用した子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料レビュー ・ インタビュー
	負のインパクト	上位目標やプロジェクト目標以外に、本プロジェクトの計画時には予期していなかったマイナスのインパクトが、何か生じているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクト報告書 ・ その他、関連資料 ・ プロジェクト関係者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料レビュー ・ インタビュー

4 3 5 自立発展性

自立発展性	本プロジェクト終了後、本プロジェクト関連事業の継続の見込み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本プロジェクト終了後も、ラオス国立図書館、教育省、情報文化省に、小中学校への読書推進の重要性が認識され続けると見込まれるか。 ・ 本プロジェクト終了後も、図書の継続的な出版が見込まれるか。 ・ 本プロジェクト終了後も、図書担当教員によって、図書が適切に維持管理されるか。 ・ 本プロジェクト終了後も、図書箱・図書袋は、有効に活用されていくと判断されるか。 ・ 本プロジェクト終了後も、教育指導官による巡回指導が継続されるような体制になっているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクト報告書 ・ プロジェクト関係者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料レビュー ・ インタビュー
	実施機関の組織能力の有無（財政面・人材面）	<ul style="list-style-type: none"> ・ ラオス国立図書館、教育省普通教育局、情報文化省、配布地域教育委員会（10 県）は、本プロジェクトの関連事業を継続していくために十分な組織能力を有しているか（財政面・人材面）。 ・ 「ラオスの子ども」は、本プロジェクトでの成果を、今後、事業としてどのように発展させていくことを考えているか（例：読書感想文コンクールなど）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクト報告書 ・ ラオス側実施機関に関する関連資料 ・ プロジェクト関係者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料レビュー ・ インタビュー
	機材の維持管理状況	<p>供与された資機材（パソコン、ビデオデッキ等）は、本プロジェクト終了後も、適切に維持管理され、活用されていくと判断されるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクト関係者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ インタビュー

4 4 草の根型案件の評価に特に必要と思われる横断的視点

草の根型案件評価横断的視点	受益者（直接・間接）のプロジェクトへの参加度合い	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの計画段階で、「誰が」、「どのように」参加していたか（特に学校関係者、子ども）。 ラオス側のプロジェクト関係者のオーナーシップを高めるために、プロジェクトの計画及び実施段階で、どのような工夫が行われていたか。 	プロジェクト関係者	インタビュー
	受益者へのエンパワーメント	<ul style="list-style-type: none"> ラオス側のプロジェクト関係者がエンパワーメントされるように、どのような工夫がなされていたか。 	プロジェクト関係者	インタビュー
	ジェンダー社会配慮	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト関係者のジェンダーバランスは配慮されていたか。 	プロジェクト報告書 プロジェクト関係者	資料レビュー インタビュー
	地域住民の理解	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト関係者は、本プロジェクトの活動に関して、どのような広報活動を行ってきたか。 本プロジェクトの活動に関する周辺住民の理解は得られたか。 	プロジェクト報告書 プロジェクト関係者	資料レビュー インタビュー
	NGO 連携（→JICA）	<ul style="list-style-type: none"> JICA が「ラオスの子ども」に期待していた NGO としての優位性は、十分に活かされたと思うか。 JICA として、本プロジェクトでの NGO 連携から、どのようなことを学ぶことができたか。 本プロジェクト終了後、新たに JICA 事業との連携の可能性はあるか。 	JICA 本部 / 在外事務所担当者	インタビュー アンケート
	NGO 連携（→実施機関、実施団体）	<ul style="list-style-type: none"> JICA との連携において、どのようなことを期待していたか（NGO 単独事業との違いなど）。その期待は、どの程度、満たされたと考えているか。 JICA と連携することによって、実施機関の組織基盤及びローカルスタッフの能力は、どのように向上したか。 実施機関である「ラオスの子ども」は、JICA と連携することによって、具体的にどのような学びがあったか。 プロジェクトの運営管理に関して、JICA に対する提案はあるか。 	ラオスの子ども担当者	インタビュー アンケート

4 4 草の根型案件の評価に特に必要と思われる横断的視点

5 . 面談記録

5 1 教育省教員養成局

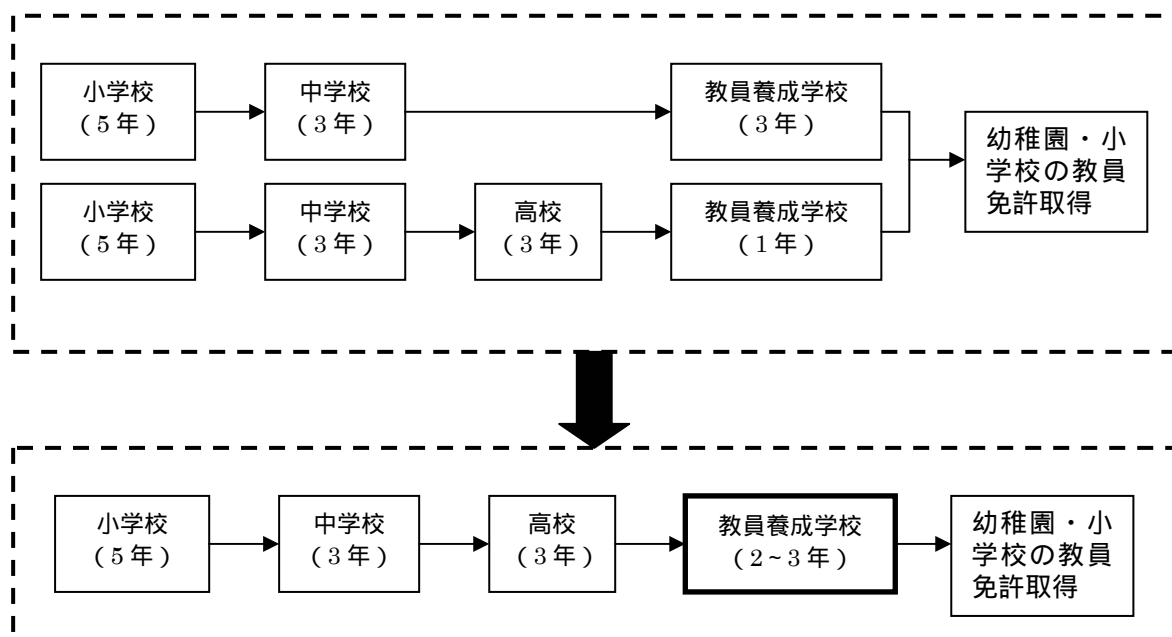
(1) 教育指導官のためのマニュアル作成

教育省教員養成局は、現在、国際開発救援財団 (FIDR) の支援を受けて、教育指導官のためのマニュアルを作成している。教育指導官は、教員を指導する役割を担っており、各学校での図書室の維持管理の指導も、指導業務の中に含まれている。読書推進プロジェクトが実施される中で、同局では、教育指導官の役割に対する重要性を認識するようになり、教育指導官のための指導マニュアルを作成した。同局は、2005 年 9 月 (新学期) からは、読書推進活動を小学校のカリキュラムに試行的に導入することを決定しており、教育指導官によって、同マニュアルに基づいた指導が行われることになっている。

(2) 読書推進における教員養成学校の役割

現在、ラオスには、8ヶ所の教員養成学校があり、中学卒業後3年間か、高校卒業後1年間、教員養成学校に通うと、幼稚園と小学校の教員免許を取得できるシステムになっている (図1 参照)。新年度 (2005 年 9 月) からは、新しい教員養成のカリキュラムを一部地域で試行的に実施し、高校卒業後、教員養成学校に3年間通うと幼稚園と小学校の教員免許が取得できる制度に変更することである。

図 1 : 教員免許取得までのプロセス



教員養成学校では、5年前から、最終学年の学生に対して、図書室の維持管理に関する指導を行っており、教員志望の学生が、図書館司書としての基本的な知識を習得できるようなカリキュラムを採用している。教員を各地から集めて、図書の維持管理に関する研修を行うと、多額の費用が必要になるので、教育省の資金不足の問題への対処策として、教員志望の学生が教員になる前に、教員養成学

校で、図書の維持管理の方法に関して学生に指導しておくという試みである。

(3) 教員養成における課題

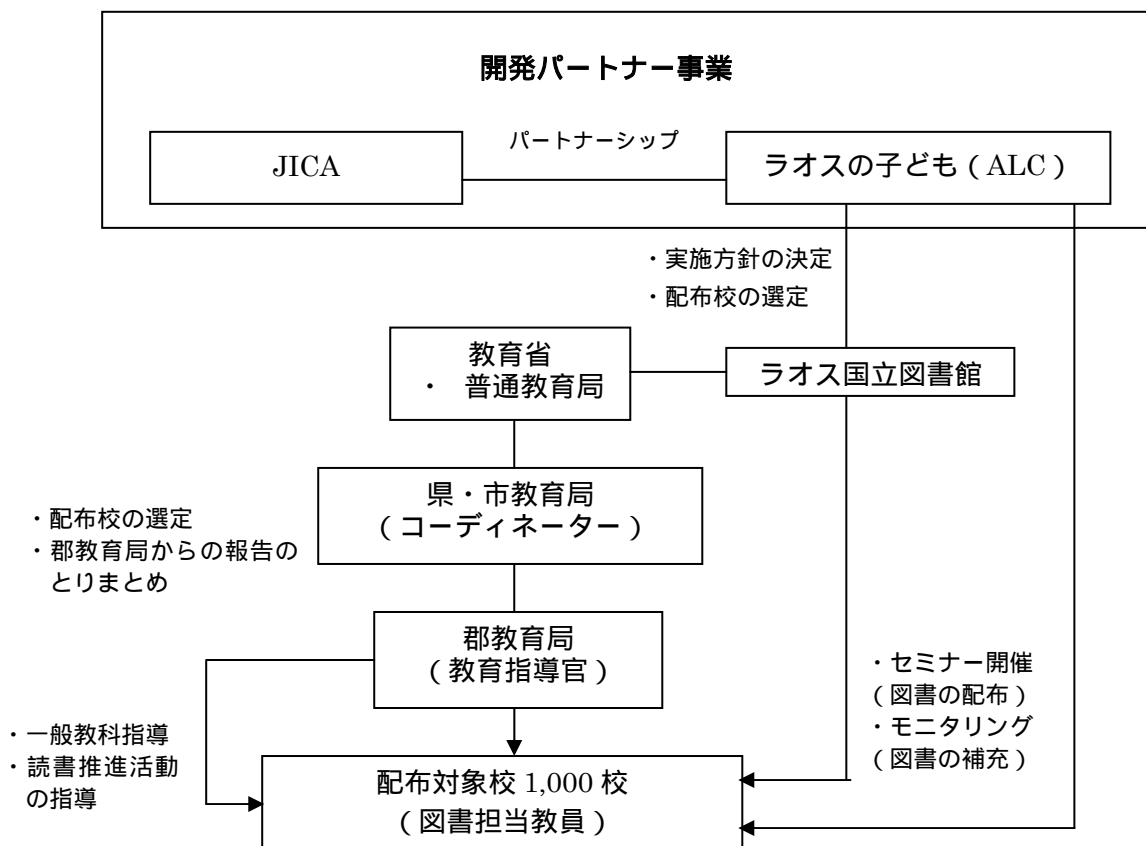
近年、ラオスでは、優秀な教員を獲得することが困難になってきている。社会主義の時代は、最も優秀な学生が教員を志望することが多かった。しかし、市場経済化が進む中で、優秀な学生は、経済・経営などを専攻し、卒業後、ビジネス業界に就職する傾向にある。その理由としては、教員の給与と比較して、民間セクターの給与の方が高いことがあげられる。優秀な教員を確保するためには、給与面で優遇するだけでなく、優秀な教員を表彰する制度を設けるなど、教職へのインセンティブを高めるための様々な工夫が必要である。

5 2 教育省普通教育局

(1) 教育指導官によるモニタリング

本プロジェクトは、図2に示すように、JICAの開発パートナー事業として、ALCがラオス国立図書館及び教育省とパートナーシップを構築しながら実施された。本プロジェクトの最も大きな成果は、図書袋・図書箱の配布後、教育指導官による各学校へのモニタリングシステムが確立されたことである。教育指導官は、一般教科の教授法を指導することを目的として、各学校を訪問していたが、本プロジェクト実施により、読書推進に関する指導が、教育指導官の指導項目として正式に取り入れられ、図書の活用方法や維持管理の仕方について各学校で指導することが、教育指導官に義務付けられた。このようなシステム化により、本プロジェクト終了後も、教育指導官による各学校へのモニタリングは、継続的に行われるものと期待されている。

図2：プロジェクトの実施体制



(2) 図書袋・図書箱の配布による効果

学校に図書袋・図書箱を配布したことにより、子ども、教員、親に、以下のような変化が表れるようになった。

子ども

- ・ よく勉強するようになった。
- ・ 授業中に、よく手をあげるようになった。
- ・ 本の周りに集まってくるようになった。
- ・ 本をスムーズに読めるようになった。
- ・ 4~5年生の子どもの中には、ボランティアで図書担当教員を手伝うようになった子どももいる。

教員

- ・ 子どもに読み聞かせをするようになった。
- ・ 教え方を自分で考えるようになった。
- ・ 自分の時間を割いてまで、図書の維持管理をするようになった。

親

- ・ 教育の重要性を理解するようになった。
- ・ 「学校に行けば本があるから、学校に行きなさい」と子どもに言うようになった。

(3) サイヤプリ県での住民参加型の図書室設置

サイヤプリ県では、多くの地域で、親が、読書推進を含めた学校教育全般に協力的な態度を示している。ラオスでは、教員の給与は、15~30ドル/月であるが、教育省の予算の中で、教員の給与よりも優先費目があるため、教員の給与の支払いが後回しにされ、給与未払いが数ヶ月続くこともある。しかし、同県の村の中には、給与未払いを理由に教員が辞めないように、親が資金を出し合って、先生の給与を支払ってきた村もある。

3年前、ALCは、サイヤプリ県で、図書室の設置を支援したことがある。その際には、住民が資金を出し合い、さらに、材木と労働力を提供し、自分たちで図書室を建設した。このような住民参加型の図書室設置が成功したので、この事例をモデルにし、住民が主体となった読書推進・図書室設置を他地域にも普及させたいと考えている。ラオスは、仏教国であるので、住民は、お寺にお金を寄付することが身近な習慣になっている。したがって、住民が読書の重要性を理解しさえすれば、お寺にお金を寄付することと同様の感覚で、図書室設置に対しても寄付をしてくれるものと期待できる。住民に、読書の重要性を認識してもらうために、パンフレットを配布するなどの啓発活動が必要であろう。現代の親たちは、自分の親が教育を受けられなかったがために良い生活をできなかったことを経験しているので、自分の子どもには、教育を受けさせたいと思っており、そのような親に読書の重要性を伝えていくことが読書推進の鍵になる。

5 3 JICA 沢田専門家 (教育省アドバイザー)

(1) 民話コンテスト

2002年7月頃より、ALC、SVA、在ラオス日本大使館から「読書感想文コンクールを開催できな

いか」というアイデアが持ち上がった。しかし、実際にそのアイデアを検討してみると、読書感想文コンクールを開催できるほど多くの本が学校にない、十分な本がない中で、課題図書を選ぶのが大変ではないか、という意見が出され、議論の末に、「民話コンテスト」という案が出された。子どもに、お年寄りから聞いて知っている話を作文してもらい、その中から優秀作品を選出するというコンテストであった。ALC、SVA、民際交流協会が支援している4県5地域を同コンテストの対象地域として選定した。対象郡には、コンテスト実施委員会を設置した。応募者には、応募用のノートとペンを配布した。2004年4月の締切までに、1,020～1,030人の応募があった。優秀作品10作は、民話集として1冊の本にまとめられ、コンテストの対象郡・学校・公共図書館やALCの図書配布対象校などに配布されている²⁰。

(2) ラオスにおける教育事情

ラオスには、小学校1～5年生までである完全校と、小学校1～3年生までの不完全校がある。教室の黒板に、クラスの出欠状況が記されているが、小学校の出席率は非常に高いという印象を受けている。小学校は、毎朝7:30～8:00頃に始まり、2時間ほど授業をした後、休憩があり、その後、また、2時間ほど授業を行っているようである。給食がないので、²¹ 昼休みになると全員が家に帰って昼食をとり、午後1時過ぎに、学校に戻り、午後の授業を受け、夕方4時頃には、授業が終わる。しかし、午後には、学校に戻ってこない子どもがいたり、あるいは、日によっては、午後が休校になっている学校もある。

(3) タイ語のラオス語教育への影響

ラオスでは、すべての出版物は、出版に際して、情報文化省の許認可を必要とする。これまで、先進的な情報を記した書物は、タイ語で書かれたものが多かった。さらに、近年、テレビを通じて、子どもがタイ語に触れる機会が増えている。このような押し寄せるタイ語の波に対して、情報文化省は、ラオス語を守るための有効な手段を講じていないように思われる。ラオスでは、ラオス語の本が少ない(ほとんど存在しない)。特に、子ども向けのラオス語の本が少ない。すなわち、情報文化省が、子どものニーズにあった出版物を出版していないので、ラオス語ばなれが起こり始めているのではないかとさえ思える。ラオスでは、親も先生も、子どもたちにはラオス語をしっかりと学ばせて、ラオス人としてのアイデンティティを大切にしてほしいと願っている。

5 4 ヴィエンチェン県教育局

(1) 読書推進活動の成果(良かった点) ラオス語教育の改善・発展に大きな貢献

ラオス語が話せない少数民族の子どもへのラオス語教育に寄与

貧困地域では就学率が低く、小学校1年生の47%が留年するという学校がある。少数民族の子どもにとって、学校が、ラオス語を学ぶ唯一の場である。教員は、ラオス語ができない子どもたちのために、ラオス語で本を読んだ後、すぐに少数民族の言葉に訳す逐次通訳方式で読み聞かせを行っている。このような読み聞かせを通じて、少数民族の子どもは、ラオス語を学ぶことができる。

²⁰ 優秀作品を集めた民話集は、ラオス語と英語の2ヶ国語で書かれている。

²¹ WFP(世界食糧計画)が給食支援として、蒸しパンを配布していた地域では、蒸しパンを目当てに学校に来る子どもが増え、就学率が上昇したという話を聞いている。

読書の重要性に対する親の認識の高まり

子どもたちだけでなく、親も、学校で本を借りるようになり、親も読書の重要性を理解するようになってきている。

非識字の親を対象とした識字教育の教材としても活用

学校に配布された本は、非識字の親を対象とした識字教育の教材としても使用されている。

(2) 教育指導官が抱える問題

図書袋・図書箱を配布した学校のうち、遠隔地にある学校に対しては、フォローアップ(モニタリング)を十分に実施できなかった。教育指導官が、遠隔地の学校に行くためには、交通費・宿泊費などが必要になるが、教育局の予算不足のため、遠隔地の学校まで指導に行くことができなかった。

5 5 ノンサワン小学校(ヴィエンチエン県)

(1) 図書の活用

ノンサワン小学校は、郡で最も子どもの学力が高いと言われている。同校では、教員が積極的に読書活動を推進している。図書配布セミナーで、図書担当教員が図書の有効活用及び維持管理について学んだ後、同校の教員全員で、どのようにして図書を活用していくかについて、よく話し合った。

(2) 住民による図書館(室)の建設

この村では、親だけでなく、住民も読書推進に協力的である。来年は、村に図書館(室)を建設することを計画している。既に、郡から木の伐採許可を取得しており、近所の製材工場の協力を得て、住民が図書館(室)建設を担うことになっている。

(3) 子どもにとっての読書のメリット

子どもが、本に親しむことによるメリットとして、以下の事項があげられる。

- ・ 偏った勉強をするのではなく、学習の興味の範囲が広がる。
- ・ 子どもが、色々な考え方をできるようになる。
- ・ 子どもが学校に来るようになる。
- ・ 麻薬の問題が減る。
- ・ 掃除が好きになる。
- ・ 衛生に関する知識を得られる²²。

(4) 読書推進の将来の計画

同じ本ばかりだと子どもたちは飽きてしまうので、将来は、教員に物語を書いてもらいたい。また、絵が少ない本は、子どもがあまり読まないのので、教員に、物語にあわせた絵も描いてもらい、手作りの絵本を増やしたい。

²² トイレの後の手洗いなどをテーマにした紙芝居も、図書と共に配布されている。

5 6 ポーンカム小学校（ヴィエンチエン県）

（1）図書箱配布後の子ども・教員・親の変化

2003年2月に図書箱が届いてからすぐに、空き部屋を図書室として利用するようになった。図書箱配布後、子どもは自主的に本を読むようになった。いつ、どこでも、本を読めるようにと、校庭の木に、本を数冊入れたダンボール箱・籠をぶら下げており、子どもが、休憩時間でも、校庭で読書を楽しむことができる²³。

教員は、配布された図書を授業でも使用しており、「今から、お話を読むよ」と言うと、子どもたちが喜んで教室に集まるようになった。教員は、読書の楽しさを、次世代の子どもたちにも伝えていきたいと思っている。

図書は、親にも貸し出されているので、親も読書を楽しむようになった。また、子どもが学校から借りてきた本を、家で、文字が読めない親や兄弟姉妹に読み聞かせをするなど、図書が、家族とのコミュニケーションにも役立っている。

（2）配布図書の内容に対する反応（どんな本が好きか）

子どもだけでなく、大人の間でも、民話に人気集中している。しかし、2002年度に出版された「大亀ガウディの海」は、話が長いうえに、絵が少ないので、あまり読まれていないようである。やはり、子どもには、短くて、絵が多い本が、よく読まれているようである。

（3）読書推進の将来の計画

県内・郡内での本の循環

子どもは、同じ本ばかりだと飽きてくるので、新しい図書を増やす必要がある。しかし、新しい図書を購入するためには、費用が発生する。お金を使わないで新しい本を子どもたちに読ませる方法として、県内の他の学校と、図書を交換することを検討している。交換だけではなく、図書をたくさん持っている学校から、少ない学校へと回してもらうことも考えている。そのためには、まず、県内・郡内の各小学校が、自校で保有している図書のリストを作成し、県・郡の教育局で図書の量を調整してもらうことを考えている²⁴。

地域住民への貸出

現在は、児童の親以外の一般住民には、図書を貸出していないが、今後は、金曜日を「オープン図書日」として、図書を地域住民に開放していきたい。

専属図書担当教員による他校への指導

図書担当教員は、クラス担任を持たず、専属で図書管理・読書推進を担当できるようにしたい。県を4つのグループに分け、グループ内の学校の図書担当教員からグループ内の指導者を選び、その指導者が、自分のグループの学校に指導に行くようなシステムを構築したい。最初は、4つのグループの中から1つだけモデルグループを選び、そのモデルグループ内だけで、試験的に実施してみたい。このようなアイディアは、2005年2月にサイヤブリ県で実施された「読書推進

²³ 終了時評価調査団が同省学校を訪問した際にも、子どもが群がるように木の周りで本を読んでいた。

²⁴ 過去に UNICEF が行った読書推進プロジェクトでは、図書の内容の多様性よりも、量だけが重視され、同じタイトルの図書が 50 冊配られたことがあった。

活動指導研修」に参加した後、思いついた。

読書推進のカリキュラムへの導入

来年度からは、正式に、読書を特別活動としてカリキュラムの中に盛り込む予定である。ラオス語の教科書が足りないので、配布された図書をラオス語の教科書としても利用しており、ラオス語の授業でも、読書推進活動を取り入れ続ける。

コンテストの実施

図書を利用して、以下のようなコンテストを計画している。

- ・ 民話語りコンテスト
- ・ 作文コンテスト
- ・ 音読コンテスト

図書室の設置

現在、ポンーカム小学校では、職員室に図書箱を置いており、職員室の一部が図書室となっている。職員室に図書があると、子どもが入りにくい、子どもが騒ぐので、教員も困る、など色々と不便なことがあるので、別に図書室を設置したいと考えている。その際には、親や地域住民が、材木や労働力の提供を通じて協力するという意向を示している。過去に校舎を建設する際にも、親や住民が協力しており、図書室建設にあたって、同様の協力が期待できる。

5 7 チャンパサック県教育局

(1) 県のコーディネーターの役割

読書推進支援プロジェクトのコーディネーターが各県に1名ずつ配置されているが、コーディネーターの主な役割は以下の通り。

- ・ ALC との連絡
- ・ 図書配布セミナーの準備
- ・ 教育省や国立図書館の職員が、図書配布対象校を視察に訪れる際の随行

(2) 図書配布セミナー

図書配布時に、セミナーで、図書の有効活用や維持管理の仕方について指導を受けるのは、とても有効であると思う。参加した図書担当教員は、とても熱心に受講していたと感じている。読み聞かせなどの実習があったので、実際に、自分の学校で読書推進活動を行う際に、大変役立ったようである。

(3) 遠隔地の学校の状況

遠隔地の学校では、校舎がきちんとした建物として整備されていないので、図書を学校に置い

ておくことができない。²⁵ したがって、先生が、図書を背負うか、リヤカーで引いて、自宅か、預かってくれる近隣住民の家まで、約1キロほどの道のりを歩いて持ち帰っている学校もある。

(4) 少数民族が抱える問題

低い就学率

県教育局の局長が、県内で読書推進に関して問題を抱えている学校を訪問したことがある。特に、少数民族が多い地区の学校では、就学率が低くなっているが、その理由としては、1) 教育に対してあまり理解を持っていない親が多い、2) 焼畑農業を営んでいるため定住する習慣がなく、子どもが学校に通いにくい、などがあげられる。

民族語とラオス語の問題

少数民族は、日常生活において、ラオス語ではなく、民族語を話しているため、ラオス語を学ぶ機会は、学校しかない。民族語しか話せない子どもにラオス語を教えるためには、その地区出身で同じ民族語を話す教員が必要となる。少数民族の多い地区では、地元の先生が民族語とラオス語の通訳をしながら、学校でラオス語を子どもたちに教えている。

5 8 ソンパーク小学校(チャンパーサク県)

(1) 配布された図書に対する子どもたちの反応

ソンパーク小学校では、半分以上の子どもが、読書に興味を持っていると思う。特に、3・4年生が、読書に熱心であるように見受けられる。3・4年生が、1・2年生に読み聞かせをしているところをよく見かける。読書に対する興味の示し方には、男女の差は感じられない。

(2) 教科書の不足

以前は、教科書1冊を10人で使っていたが、住民が1人5,000キップずつ寄付金を出し合い、教科書を購入したので、現在は、1冊の教科書を5~6人で使っている。²⁶教科書が不足している状況で、プロジェクトから図書が配布されたので、配布された図書は、教科書代わり、あるいは、副読本として、ラオス語の授業に使用している。

(3) 学校以外での図書の活用方法

この地区では、子どもたちの親の約50%は、非識字者である。市の教育局が、ノンフォーマル教育の一環として、コミュニティーセンターで識字教育を実施している。その際の教材として、プロジェクトで配布された図書を活用している。

(4) 読書推進に関する今後の計画

図書室の設置(建設)

図書が配布されたことに対して、子ども、親、地域住民は、大変喜んでいる。校長が、村の住民と相談して、図書室を設置(建設)することを検討している。村にある寺の住職は、読書推進

²⁵ 校舎の具体的な未整備状況としては、床がない、屋根の雨漏りがひどい、などの状況がある。

²⁶ 教科書1冊の値段は、8,000~15,000キップ。

活動を高く評価しており、図書室設置（建設）のために寄付をしたいと申し出ている。仏教国ラオスでは、寺院に寄付をする習慣があり、親や住民が、図書室設置（建設）のために、寺院に寄付することに心理的抵抗はないものと思われる。

今後希望する本の種類

今後も、学校に本を増やしていきたいので、NGO や国際機関など、あちこちの支援団体に、図書の提供をお願いしたいと考えている。子どもは、絵の多い民話が特に好きなのである。民話の他にも、地域住民が色々な知識を得られるような本を学校に置きたいと思っている。中学を卒業したものの、中学校で英語を学ぶ機会がなかった青年は、英語の独学用の入門書をよく利用しているようである²⁷。

5 9 トモタ小学校（チャンパーサク県）

（1）配布された図書に対する子どもたちの反応・利用方法

図書が学校に配布されてから、子どもたちの出席率がよくなった、学校に早く来るようになった、などの変化が表れるようになった。子どもたちは、本を読みたいので、学校が始まる前に図書室にやって来て本を読んでいる。トモタ小学校では、図書の利用状況をモニタリングするために、図書室の入り口に、小石と空き缶を置いておき、子どもが入室する際に、小石を空き缶に入れ、図書担当教員が、小石の数を数えて図書の利用者数を把握している。

配布された図書は、村の住民にも貸し出されている。村のミーティングで、配布された図書を紹介し、大人に対しても図書の利用を勧め、読書推進を行っている。

（2）教育指導官によるモニタリング

郡の教育指導官は、年2回、学校訪問をすることが義務づけられているが、予算の都合上、すべての学校に対して、訪問指導を行うことができない状況である。この郡では、読書推進活動に関して、「最良」と「最悪」の状態が予測される学校に絞り込んで、教育指導官がモニタリングを行っている。これは、効果的に読書推進活動を実施している学校から何らかのヒントを得て、そのヒントを他の学校（特に、読書推進が停滞しがちな遠隔地の学校）に生かそうという狙いである。

（3）読書推進に関する今後の計画

トモタ小学校では、村人が、本棚を作ってくれることになっている。同小学校は、1～3年生までの児童のみが学ぶ分校である。近くにある本校では、職員室に図書を置いているが、部屋が狭いので、新しく図書室を設置したいと考えている。本校の隣にある中学校が、近い将来、移転することが決定しているので、その空き教室の一つを図書室にすることを検討中である。

5 10 セコーン県教育局

セコーン県には、合計 189 の小学校があり、そのうち 70 校が、本プロジェクトによって図書の配布を受けた。同県は、四つの郡から成り、各郡に 3 名、県に 1 名、合計 13 名の教育指導官

²⁷ ラオスでは、英語の教員が不足しており、中学校に必ずしも英語の教員がいるとは限らない。

が配置されている。

教育指導官の出張費用は、一般予算で賄われるが、予算不足のため、教育指導官が、遠隔地の学校にまで訪問指導を行うことは困難な状況にある。しかし、アジア開発銀行（ADB）が女子教育支援のプロジェクトを実施している地域では、教育指導官の出張旅費として特別予算が割り当てられている。したがって、教育指導官が遠隔地の学校を訪問し、読書推進を含めた学校教育全般について、指導を行うことが可能となっている。

5 11 バンベン小学校（セコーン県）

バンベン小学校には、合計 6 人の教員がおり、そのうち 2 人が村の少数民族の出身である。少数民族の子どもは、民族語を話すので、同じ民族語を話す教員が歓迎される。

学校の校舎は、白アリの影響で損傷が激しい。配布された図書は、学校に隣接する村の集会所に置かれている。配布された図書を丁寧に扱うように子どもたちに指導しているものも、図書は、かなり白アリによって破損している状況である。長期休暇中には、図書担当教員は、図書をすべて自宅に持ち帰って管理している。近い将来、村の住民に木材を持ってきてもらって、図書を置いている校舎の壁を補強してもらいたいと考えている。修復してもらった校舎は、図書室と村の集会所として活用したいと考えている。

5 12 サトゥアヌア小学校（セコーン県）

（1）学校・教員の現状

サトゥアヌア小学校は、1～3 年生までの児童が通う不完全校（分校）である。4 年生以上の子どもは、歩いて 5～6 分ほど離れたところにある完全校（本校）に通っている。3 年生を終了した児童の 4 年生への進学率は、ほぼ 100% である。

サトゥアヌア小学校がある村には、3 つの少数民族が居住している。この小学校には、教員が一人しかおらず、その教員も、少数民族（カトゥ族）の出身である。教員は、この村の出身ではないが、同じカトゥ族ということで、離れた村から同校に赴任している。現在、教育省の予算不足のため、数ヶ月間、給与が支払われないことがあるので、村長をはじめとする村の住民が、その教員の生活の面倒をみている。村長は、自宅に同教員を下宿させ、また、村の住民が、1 ヶ月に米 25 キロを給与代わりにして同教員に与えている。村の住民は、自分たちの子どもに、教育を受けさせたいと思っているので、教員に辞められては困ると思い、自らが、教員の給与に相当する米を提供することで、子どもの教育の継続に貢献している。

（2）図書の貸出

サトゥアヌア小学校では、一人 1 冊、2 日間まで図書を借りることができる。図書は、子どもだけでなく、親や地域住民も借りることができる。借りられた図書が、返却されないことはなく、全員、きちんと返却してくれているので、図書の貸出に関して、特に大きな問題はない。しかし、同校は、遠隔地にあるため、教員指導官は、まだ一度も訪問指導に来たことがない。

（3）教員が望むこと

同校の教員は、今後、学校教育の改善のために望むこととして、教員の数を増やしてほしい、図書箱の使い方の研修をもう一度受講したい、教科書がほしい、をあげている。この小学校

では、一人の先生が、1～3年生までの3クラスの授業と、図書の貸出を担当しているので、一人の先生の負担があまりにも大きい。また、教科書は、教員しか持っておらず、子どもは、教員による板書をノートに書き写して学習している。

5 13 ローンケン小学校（ヴィエンチャン県）

（1）図書の活用状況

図書担当教員は、きちんと貸出カードを作り、貸出記録をつけ、図書配布セミナーで習った通りに、配布された図書（約300タイトル・計404冊）を管理している。子どもたちには、きちんと貸出のルールを説明している所以、そのルールは、きちんと守られている。高学年の子どもは、自主的に図書の維持管理・貸出を手伝っている。1日に約25～30人の子どもが、図書室で本を読んでいる。また、1日に約30人の子どもが、図書を借りている。また、図書を利用できる曜日を学年ごとに指定し、毎週1回、各学年の授業に、読書の時間が割り当てられている。

（2）図書活用の工夫と子どもたちの変化（反応）

図書が学校に配布される以前は、子どもたちには、本を読むという習慣がなかった。しかし、図書配布後は、子どもたちが読書の楽しみを知るようになり、学校への出席率が高くなった。以前は、欠席率が20%くらいであったが、現在は、15%くらいに減ったように思われる。

教員は、配布された図書を授業で子どもたちに読み聞かせている。また、教員や子どもたちは、紙芝居や絵本を自分たちで作成している。教員は、授業中に、紙芝居も行っている。

図書は、特に3～5年生がよく借りている。1～2年生は、まだ、文字があまり読めない所以、3年生以上の子どもが、低学年の子どもに本を読み聞かせてあげている。図書は、子どもたちだけでなく、親や地域住民にも貸し出されており、親や中学生が図書室に来て本を読んでいる。また、子どもたちは、自分が読んだ本の内容を家に帰って親に伝えたり、借りて帰った本を親に読み聞かせたりしており、読書が親子のコミュニケーションの役割も果たしている。

（3）図書担当教員・教育指導官

図書担当教員は、図書配布セミナーで学習した内容のうち、特に役立った事項として、紙芝居の使い方、図書の補修の仕方、をあげている。

ローンケン小学校は、ヴィエンチャン市内からあまり離れていない所以、教育指導官が毎月1回、訪問指導に来ている。ヴィエンチャン県内の遠隔地の小学校では、教育指導官の訪問指導が行き届いていないのが現状である。

（4）読書推進に関する今後の計画

現在、図書室には、約300タイトル404冊の図書があるが、今後も新しい図書を追加していきたい。人気のある本は、破損が激しい所以、同じタイトルの図書を少なくとも2～3冊は、図書室に置いておきたい。新しい本を増やしていくために、親から図書購入のための寄付金を集める、別団体に図書の配布・補充を求める、自分たちで絵本を作成する、などの案を検討している。

最近10年間、教育省は、印刷費用が十分でないため、教科書の配布・補充を行っておらず、同校では、教科書が不足している（子ども5人に1冊）。特に、1・2年生用の教科書は、破損が激しい所以不足しており、1・2年生用の教科書を優先的に入手したい。

ローンケン小学校のある地区では、各小学校が読書推進活動に特に力を入れている。同地区内の各学校が、読書推進活動に関する情報交換を行い、さらに、読書推進活動を発展させていきたいと考えている。同地区の小学校は、ヴィエンチャン県の中で、同地区が読書推進活動のモデル地区となることを目指している。

5 14 シャンティ国際ボランティア会（SVA）

（1）読書推進支援開始の経緯

SVA では、1992 年以来、ラオス全国の小学校に、謄写版を配布するプロジェクトを実施していた。しかし、ラオスには、青少年を対象としたラオス語の本が非常に少ないということで、SVA は、2000 年に、青少年（中学生以上を対象）のための図書室を SVA の事務所内に設置し、ラオスでの読書推進支援を開始した。現在、土曜日には、約 150 人の青少年が、同図書室を利用している。

（2）SVA による読書推進活動

県の公共図書館への支援

SVA は、これまで、県の公共図書館に、図書の配布を行ってきた。その結果、公共図書館の図書は増加し、図書館の利用者数は大幅に増え、図書館員が忙しくなった。図書館員の負担が増えたが、彼らへの報酬が増加するわけではない。図書館員の労働意欲を削がないためにも、県として、図書館員に対して何らかのインセンティブを与える工夫が必要である。

SVA は、移動図書館車による図書の貸出サービスも行っている。さらに、現在、SVA は、ヴィエンチャン市内に、多目的ホールを備えた公共図書館の建設を計画している。

小学校への支援

地方に住む子どもたちにも、読書を楽しむ機会を与えたいと考え、地方の小学校も含めて、図書箱の配布を行ってきた。1 年間に 90～100 の図書箱（1 箱に 100～120 冊）を配布してきた。しかし、図書箱に鍵をかけたまま、利用されていない、図書が利用されていても、2 年後には、なくなってしまうなどの問題が生じている学校もあった。このような問題を回避するため、毎年、違う学校に配布するのではなく、現在は、図書の利用状況をモニタリングするために、3 年間は、連続で同じ学校に図書を配布することにしている。近隣の学校でクラスターを形成し、同クラスター内で、読書推進活動に関する情報交換を行うように指導している。図書の配布先の学校に、図書担当の専任教員がいる場合は、図書の利用率が高くなっているようだが、図書担当の専任教員がいない学校では、図書の利用率は、それほど高くないような印象を受けている。配布する本は、毎年、日本でラオス語に翻訳済みの図書（約 4,000 冊）をラオスに送ってもらっている。

（3）国立図書館の現状

国立図書館は、情報文化省に所属しているが、同省は、図書館事業の重要性を認識していないのではないかと感じている。国立図書館の館長は、読書推進活動に非常に熱心であるが、それ以外の職員は、あまり熱意を持っているように思えない。情報文化省は、読書の「推進」よりも、「規制」を促進しようとしているのではないかと感じる。国立図書館の館長は、読書推進に熱心であるが、国立図書館が、組織として、読書推進を支援しているという印象は受けない。図書館事業は、情報

文化省よりも、教育省の管轄下にある方が良いのではないか。

(4) ラオス政府のタイ語の図書に対する意識

ラオスでは、中学生以上の青少年を対象とする図書は、ラオス語ではなくタイ語で手に入ることが多い。青少年を対象としたラオス語の図書は、ラオスでは数が少ない。ラオス政府内には、タイ語の図書に対して、抵抗を感じるという意見がある一方で、英語や仏語の図書を出版しているのだからタイ語の図書も問題はないのではないかという意見もある。このようにタイ語の出版物に関しては、両極の2通りの見解がある。ラオス国内には、青少年向けのラオス語の本が極端に不足しているので、タイ語の本で補うしかないというのが現状である。したがって、現在は、政治と宗教に関する本以外なら、タイ語の本を出版することに問題はないとされている。

(5) SVA の読書推進以外の活動

SVA では、読書推進以外にも、ラオスの青少年たちのために、以下のような活動を実施している。

ヴィエンチャン市内のストリートチルドレンに関する調査(2003年)

ヴィエンチャン市内で物乞いをしているストリートチルドレンのほとんどは、地方出身者である。彼らは、ある一定の期間(短期間)、物乞いをしながら、同市内に滞在している。

「アジア子ども文化祭」(@東京読売ホール)

近年、テレビを通じて、ラオスの青少年がタイ文化の影響を受けているが、彼らにラオス人としての夢と誇りを持ち続けてもらいたいと願い、SVA は、「アジア子ども文化祭」を開催した。

麻薬中毒者の更正施設への慰問活動

麻薬中毒者の更正施設に、青少年ボランティアが慰問し、人形劇を演じている。将来は、同施設に、図書室を作りたいと考えている。

6 . 調査報告会出席者一覧

	氏名	職位	所属先
1	Mr. Khamhoung Sackekham	Director	Department of General Education, Ministry of Education
2	Mr. Chandy Phommabough	Deputy Director	Department of Teacher Training, Ministry of Education
3	Mr. Vilad Oudomsour	Advisor	Department of General Education, Ministry of Education
4	Ms. Somdy Phanthasouk	staff	Department of General Education, Ministry of Education
5	Mr. Phokhaysovanh Phothisane	staff	Ministry of Education
6	Ms. Buasone Vongthavone	staff	Ministry of Education
7	Ms. Oulayvone Boulommavoy	Director	Department of Publishing
8	Mr. Sithan	sub-coordinator	Vientiane Province
9	Ms. Maki Tanaka	expert	Department of Teacher Training, Ministry of Education
10	Ms. Kongdeuane Nettavong	Director	National Library
11	Ms. Lasoy Senosouvanh	staff	National Library
12	Ms. Onta Samuntry	staff	National Library
13	Ms. Kahnthamaly	staff	National Library
14	Ms. Phouangvanh Phomimsoy	staff	National Library
15	Ms. Nivoneth	teacher	Nongsuanthnong Tai School
16	Mr. Hitoshi Kawamura	Director	Shanti Volunteer Association (SVA)
17	Ms. Dara Kanlaya	Advisor	Action for Lao Children
18	Ms. Akashi Akai	Project Manager	Action for Lao Children
19	Ms. Tomoko Kondo	Project Coordinator	Action for Lao Children
20	Ms. Somphet	staff	Action for Lao Children
21	Ms. Banfon	staff	Action for Lao Children
22	Ms. Bovakhao	staff	Action for Lao Children
23	Ms. Chansy	staff	Action for Lao Children
24	Ms. Amphon Anousaya	Director	Child's Education Development Center
25	Ms. Thongbay	staff	Child's Education Development Center
26	Mr. Vilaychith Comangdula	staff	Child's Education Development Center
27	Ms. Shuichi Ikeda	Deputy Resident Representative	JICA Laos Office
28	Ms. Ritsuko Horibe	Project Formulation Advisor	JICA Laos Office
29	Ms. Vithanya Noonan	staff	JICA Laos Office
30	Mr. Jun Sakuma	mission member	Team Director, Basic Education Team 1, Group 1(Basic Education), Human Development Department, JICA
31	Ms. Yasuko Ose	mission member	Global Link Management
32	Ms. Yoshiko Sogawa	mission member	staff, Basic Education Team 1, Group 1(Basic Education), Human Development Department, JICA